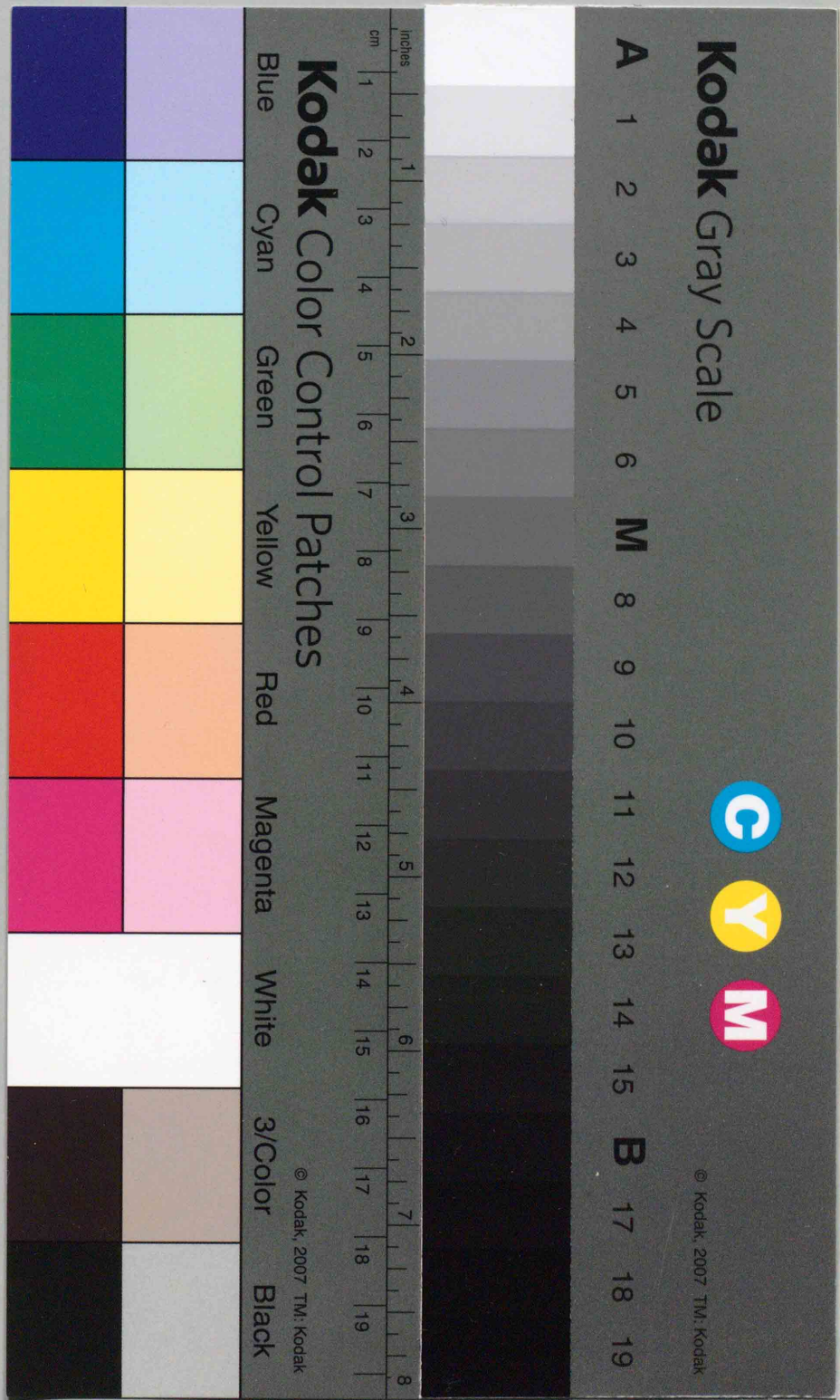


教科書文庫
4
293
40-1925
2000301540



42824

教科書文庫

4
293
40-1925
200030
1540



資料室

375-9
Salt

教科書文庫

4

293

40-1925

2000301540

中 等 教 育 最 近 世 界 地 理

三 省 堂 編 輯 所

編 纂

九 訂 版

上 卷



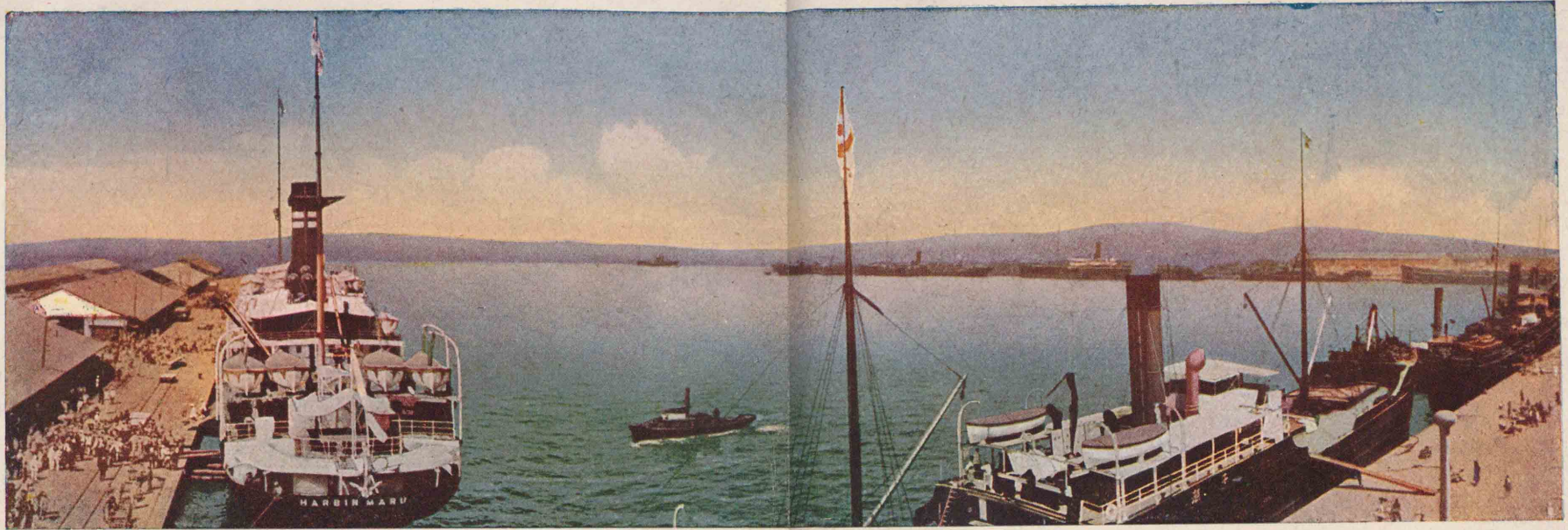
株 式 會 社

三 省 堂 發 兌

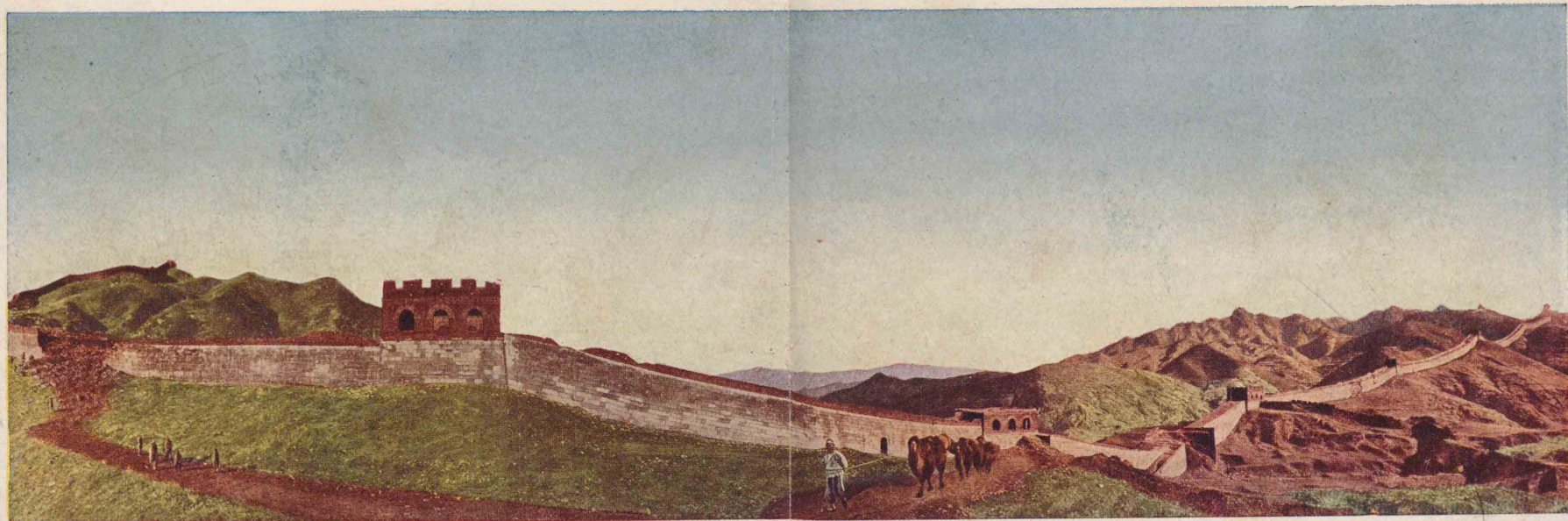
廣島大学図書



東洋第一の設備と稱せらるゝ大連埠頭は、最初露國の東清鐵道會社が一千萬留の巨資を投じて造築せるものなるが、その後日本の投資によりて現在の三埠頭を完成せり。幅は各差異あれども、長さは何れも約六百米にして、一萬噸級の大船を繋ぐべく、又陸上に設けられたる倉庫は、優に三十萬噸の穀量を藏し得べしといふに至りては、規模の大なるに驚かざるを得ず。



大連の埠頭



萬里の長城

城壁の創建は甚だ古しと雖、要所に對する一部の築造に過ぎざりしが、秦の始皇帝に至り、大規模の修築を加へて連續せる長壁となし、稱して萬里長城といふ。延長三千餘軒、高さ五米乃至十米、厚さ五米乃至八米に及び、土石甃瓦を以て築き、約百二十米毎に堡塞を設けたり。その後屢、修築を加へ、現在のものは主として明代の修築にかゝるといふ。規模雄大、實に東亞の偉蹟なり。

辯言

本書は、中等學校の教科用書に充てんが爲、最近の事實に基き編纂したるものにして、中等教育最近日本地理中等教育及び最近地理通論と脈絡を一貫せしめ、相俟ちて地理教授の本旨を達せんことを期せり。本書の編纂に當り、特に留意したる點は大要左の如し。

- 一、小學教育との聯絡には最も意を注ぎ、地名の發音記載等も勉めてその方法を襲用したり。
- 一、滿洲及び東部内蒙古は我が國との關係自ら他と異なるが故に、編を別にして稍、之を詳述したり、即ち世界地理より分ちて、特に滿洲地理の項を設けられたる要目の趣旨を斟酌したればなり。
- 一、地名の左側に記したる數字は人口にして、萬を單位とし、二十萬以上の人口を有する都邑のみ之を示したり。
- 一、統計は、能ふ限り最近の數を探りたれども、大戰の結果著しき變動を生じ、未だ常態と認め得ざるものは特に戰前の數に據りたる所あり。
- 一、里程尺度等は總てメートル法を用ひたれど、鐵道、航路等は、當該官省の公用に従ひ、哩、漚を用

ひたり。

一、卷末に設問を附して學生の自習を促し併せて豫習・復習の便に供したり。

本書は時勢の推移に伴ひ、茲に第九回の修訂を加へて、益々内容の改善を施したり、是れ教官各位の熱誠なる注意に負ふ所少なからず謹みてその好意を謝す。

大正十三年十二月

編者識

中等教育最近世界地理 上卷目次

緒言……………一

第一編 滿蒙地方

第一章 關東州……………三

第二章 滿洲……………七

第三章 東部內蒙古……………一九

第二編 亞細亞洲

概説……………四

各説……………七

第一章 支那……………七

一 支那本部……………七

二 西藏青海新疆蒙古……………七

第二章 亞細亞露西亞……………五

一 西比利亞……………五

二 中央亞細亞……………六

三 高加索……………六

第三章 印度支那……………六

第四章 マレー諸島……………七

第五章 印度……………七

第六章 西部亞細亞……………七

一 イラン地方……………七

二 西部地方……………七

三 亞刺比亞……………七

總説……………七

附録……………七

設問集……………七

中等教育最近世界地理 上巻目次終

中等教育最近世界地理 上巻

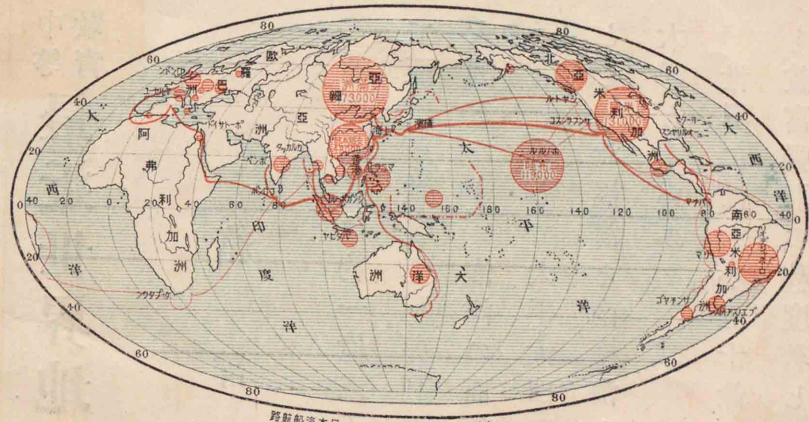
緒言

地球上には約一億三千八百萬方籽(九百萬里)の陸地あり、之を分つて亞細亞・歐羅巴・阿弗利加・北亞米利加・南亞米利加及び大洋洲の六大洲となす。海洋の面積は陸面に約三倍し、分ちて太平洋・大西洋・印度の三大洋とし、又北極海と南極海とを加へて五大洋ともいふ。

世界には大小五十餘の國家あれども、貧富強弱の程度著しく異なり、所謂

勢國の本日 (よせ比對と勢國の國列)

面積……………	約六、三〇〇、〇〇〇方籽
人口……………	約七、〇〇〇、〇〇〇人
内地密度(二方籽)……………	約一、五〇〇人
歳出……………	約一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓
輸入額(十二年)……………	約一、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓
輸出額(十二年)……………	約一、四〇〇、〇〇〇、〇〇〇圓
鐵道延長……………	約二、〇〇〇、〇〇〇哩
汽船噸數……………	約三、〇〇〇、〇〇〇噸



強國と稱せらるゝは極めて少く、世界陸地の大部は、是等數強國の勢力を振へる處なり。我が國は近年大いに國運の發展を來し、内は産業、貿易益、進歩し、外は版圖次第に増大し、殊に歐洲大戰以來、著しく國際的地歩を高めて、今や五大雄邦の一に數へられ、その一動一止は悉く世界の視聽を牽き、吾人が世界的智識の必要を感ずること甚だ急なり。この時に當り、世界の地理を學びて列國の大勢を知り、益、國勢の伸展を計るは、最も必要にして且興味深きことにあらずや。

漢書大學
圖書之印

第一編 滿蒙地方

第一章 關東州

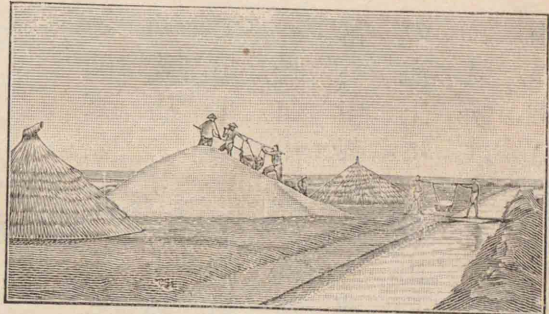
總說

面積 約三千四百万
 軒(約二百二十
 十方里)
 人口 約七十萬人

奥羽地方と同緯度
 なれども遙に寒く
 して旅順の外不凍
 港なく大連も冬季
 二三週間は碎氷船
 を用ふる必要あり

關東州は、渤海と黄海とを分てる遼東半島の西南部を占め、北は普蘭店より貔子窩附近に至る一線を境とし、南は直隸海峽を隔てて山東半島と相對す。その面積は、伊豆半島の殆ど二倍あり。長白山脈の餘派域内に起伏して、平野に乏しと雖、海岸は屈曲に富み、中部には大連・金州の兩灣深く彎入して金州地峽を挟み、東方の海上には長山列島散在し、海洋島はその東端をなす。氣候は寒暑共に強く、冬は海面概凍結し、雨量は初夏の頃往々大雨のある外、一般に少し。農産は多少の高梁・大豆等を見るに過ぎ

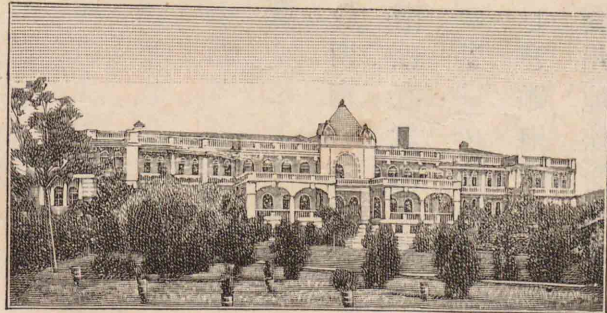
貔子窩を始め双島
灣普蘭店等には大
なる鹽田あり



貔子窩の鹽田

されども、近海は漁利多く、製鹽も亦盛に行は
れ、大連には硝子、煉瓦、豆油等の工場あり。
この地は滿蒙地方の門戸に當り、海には大
連を中心として、多數の
航路輻輳し、陸には南滿
洲鐵道ありて、遠く滿洲
の内部に通ず。
住民は約七十萬あり、
その大部は支那人にし

て、邦人は約十萬に過ぎず。遼東半島は日清
戰役後、一時我が國の領土となりしが、我より
還附して後、その一部たる關東州は露西亞の
租借地となり、鐵道の敷設、市街港灣の修築等、

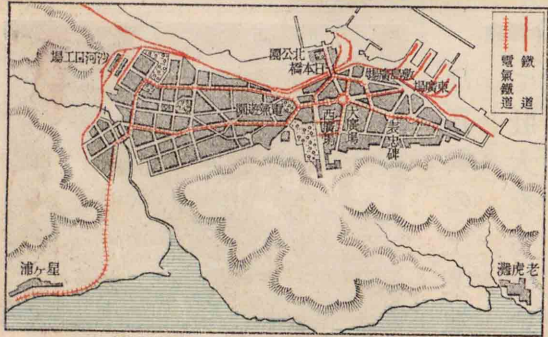
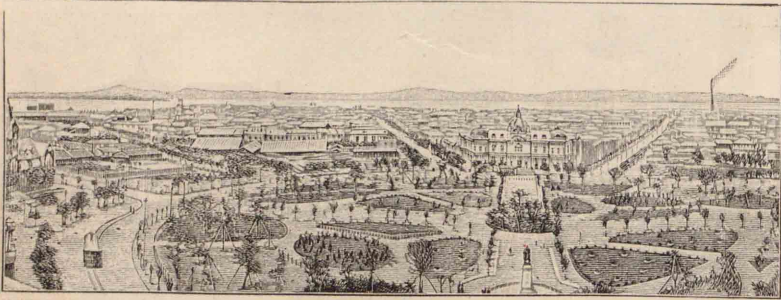


關東廳

關東廳の下に旅順
大連金州の三民政
署ありて各管内の
政務を行ひ又關東
軍司令官を置きて
防備に當らしむ

大連門司間の航通
は約二晝夜を要す

關東州は自由貿易
區なれば輸出入共
に貨物に關稅を課
せず



大連市の展望と市内の交通機關

銳意之が經營に力を盡したりしも、日露戰役の
後、我が國は露西亞に代りてその權利を繼ぎ、今
は關東廳を設け、長官をして民政を統べしめ、又
その海岸海面は、關東州海軍區にして、佐世保鎮
守府の所管に屬す。

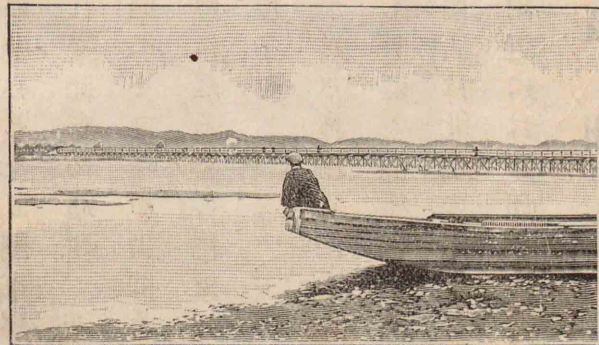
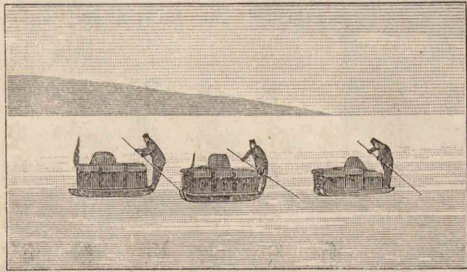
處誌

大連市は、鐵道、航路の要
點に當り、市街壯麗を極め、
港灣の規模も亦甚だ宏大
にして、大船も岸壁に繫留
す。南滿洲鐵道會社の所
在地にして、近年工業も次



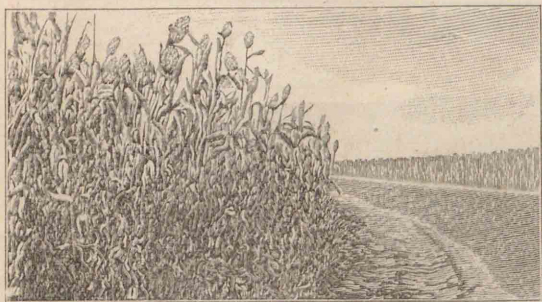
と稱し、面積は我が國の約一倍半に當る。域の西部は興安嶺の傾斜地に屬し、東部には長白

西方は蒙古と接し、北より東北にかけては、黒龍江及びその支流ウスリ河を以て西比利亞と境し、東南は豆滿江を挾みて、我が朝鮮と對す。域内を奉天、吉林、安、黑龍江の三省に分つ



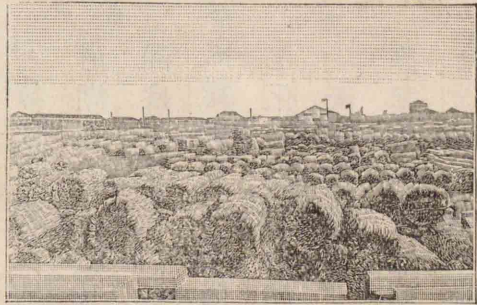
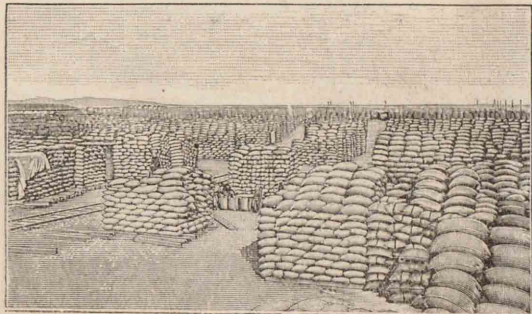
氷の上の橋と遼河

小麦は製粉の原料となり高粱は土人の食用の外醸造の原料家畜の飼料となり大豆は豆油豆粕に造られ甜菜は製糖の原料となる



山脈連りて、山勢遠く遼東半島に及び、其等の間に廣き滿洲平野を挾む。松花江は滿洲第一の大河にして、嫩江その他の支流と共に、平野の北部を流れて黒龍江に會す、この流域の大部を北滿洲と稱す。南部の地方は南滿洲といひ、奉天省及び吉林省の一部之に屬し、遼河その南部を流る。

氣候は大陸性にして、寒暑共に烈しく、冬は河湖悉く凍結して、人馬その上を往來し、北滿洲は寒氣殊に嚴烈なり。雨量は一體に乏し、梁けれども、夏季には往々大雨ありて、道路泥濘と化し交通を妨ぐる事あり。沃野廣きが上に、夏季の温度高きを以て、頗る農業に適し、北滿洲には小麦の産多く、南滿洲は盛に高粱を耕作して、土民の常食となし、そ

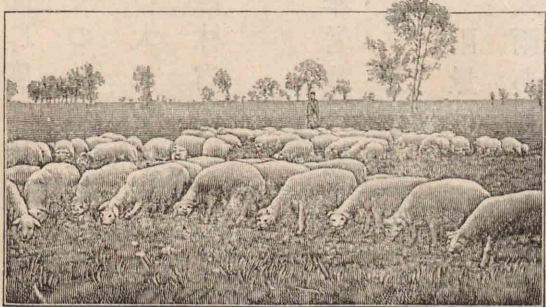


大豆の積集と煙草の野積

の他一體に大豆・粟・玉蜀黍・煙草等の農産甚だ多く、殊に大豆は世界的商品として産出益増加せんとし、甜菜の栽培も新に興

鴨綠江上流地の木材伐採は日支の合同經營に屬す

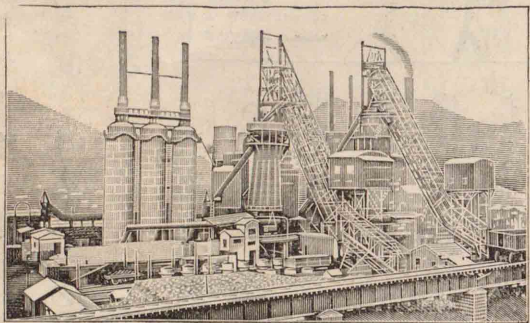
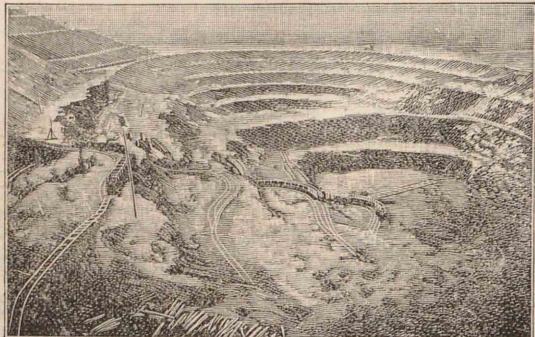
り、遼東半島の東北部には、柞蠶絲の特産あり。牧畜は豚・羊・馬・牛・騾等の飼養盛にして、次第に良好の牧場たらんとし、北部には之を專業とするものあり。鴨綠江及び松花江の上流地には、大森林ありて多量



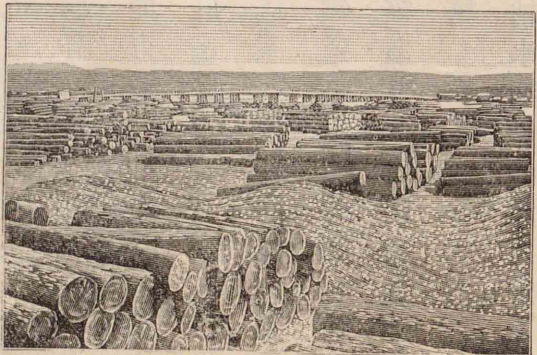
滿洲の畜牧

日本人の經營に屬する各種の大工場所々に興れり

の木材を産し、鑛物の埋藏も頗る廣く、殊に石炭(撫順・煙臺)と鐵(鞍山・本溪湖等)とは、本邦人の投資又は經營によりて、その採掘大いに進み、鞍山・本溪湖等には、壯大なる製鐵所あり。各種



撫順の炭鑛と本溪湖の鐵製所

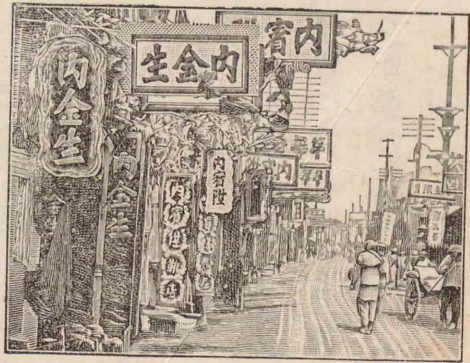
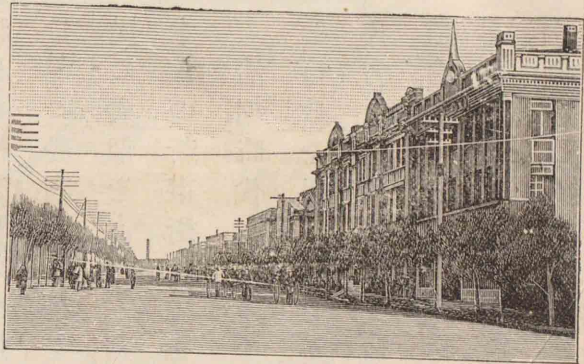


鴨綠江上流地(方)の材木積集

富源の開拓進むと共に、製粉・製油等の工業も亦益盛となれり。商業も近年著しく發

奉天に我が總領事館ありて新民・通化にその分館あり

本溪湖の炭鐵は日支合辦なり



奉天の新しい街市と舊い街市

處誌

この地は清朝の舊都にして、近郊にその陵墓を存す。東方の撫順炭田は、採炭規模の大なること稀に見る所にして、煙臺の炭田と共に、我が國の經營に屬す。本溪湖は、石炭の外に鐵を産し、製鐵頗る盛な

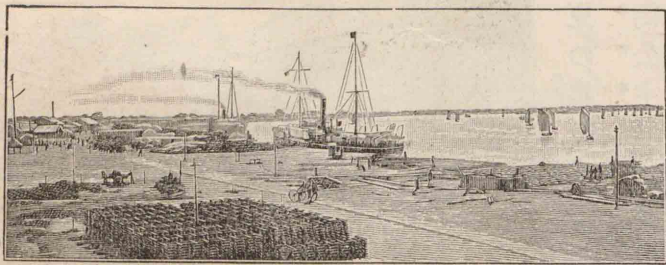
治商業の大中心にして、貨物の集散頗る多く、滿洲第一の都會をなし、我が滿洲醫科大學あり。

奉天省は、南滿洲の大部を占め、産業交通最發達し、我が國との關係殊に密なり。首都奉天は、交通上重要な地點に當り、政

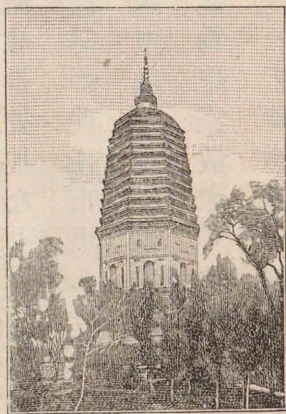
遼陽に我が領事館あり

營口に我が領事館あり

安東に我が領事館あり



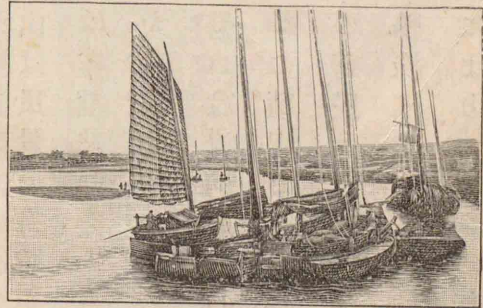
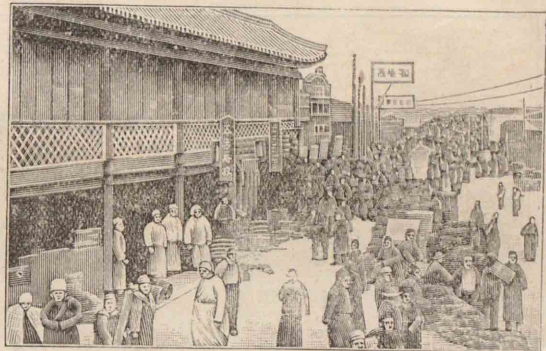
り。煙臺炭坑に近き遼陽は、太子河の水利を有して、貨物の集散行はれ、西南の鞍山は、豐富なる鐵山を控へて、壯大なる製鐵所を設け、



遼陽の白塔

營千山は風景の奇勝を以て著はる。蓋平の地方口には、柞蠶絲の産あり。大石橋は營口線の分岐點にして、その終點たる營口は、遼河の河口を扼する商港にして、大豆頭豆粕の積出多く、又豆油の製造盛に行はる。上流の新民は、京奉鐵道の要驛なり。鴨綠江畔の安東は、安奉鐵道の起點に當り、架橋によりて朝鮮の新義州と接続し、交通上の要

鐵嶺に我が領事館、
拘鹿・海龍にその分館あり



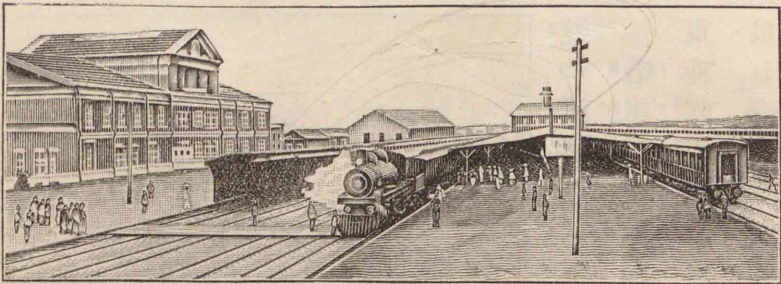
鄭家屯の市場と馬蜂溝の河岸

鄭家屯に我が領事館あり

豆の集散盛にして、その東北に拘鹿・海龍等の農産市場あり。四平街・公主嶺は共に近年の發展著しく、鄭家屯は蒙古に對する要地にして、曹達を産し、又白音太拉と共に農産物を集散す。洮南は東蒙貿易の要地にして、農産畜産の集散行はれ、近時鐵道の開通により、

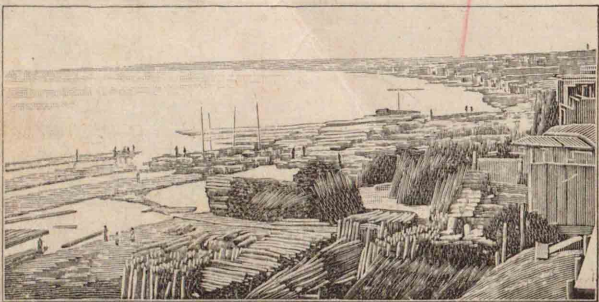
長春に我が領事館ありて農安にその分館あり

吉林に我が領事館あり
吉林・會寧間に日本よりの借款にて鐵道敷設せらるべき豫定なり



長春の停車場

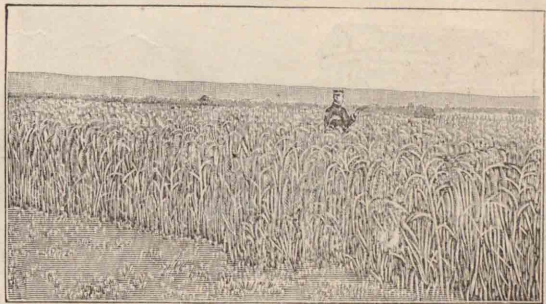
更に一段の價值を加へたり。
吉林省は奉天省の東北に連り、その東部は朝鮮と接す。長春は南滿東支吉長等の鐵道相會する處にして、大豆・家畜等の集散甚だ多く、製粉等の工業亦盛となり、近年の發展著しく、我が經營に屬する新市街は、その規模甚だ壯大なり。松花江に臨める吉林は、省の首都にして、木材の集散多く、又煙草の産あり。この東南に當る地方を間島と稱し、多數



松花江の岸に吉林の木材の集積多し

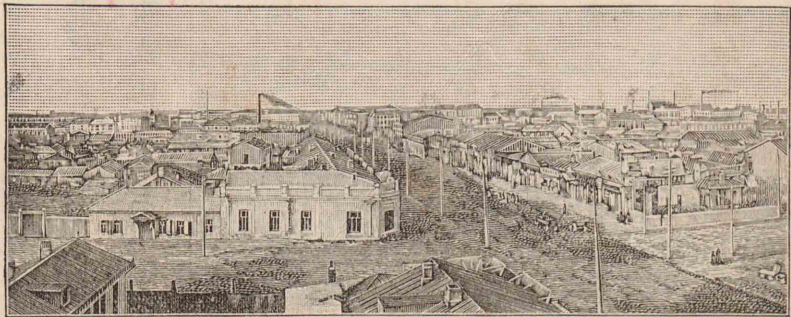
龍井に我が問島總領事館ありて局子街・頭道溝・琿春・百草溝にその分館あり

哈爾濱に我が總領事館あり



の鮮人在住して開拓に従事し、粟の産殊に多く、問天寶山には銀銅等の産鳥あり。龍井局子街は、この地方の重要市場にして、粟て、東北の琿春は、國境の要地なり。牡丹江に沿へる寧古塔は、東部の要市にして、その下流に三

姓の河港あり。
ハハ爾濱は露人の新に興したる市街にして、東支鐵道本社所在地なり。製粉・釀造等行はれ、商業甚だ盛なり。この西方に伯都訥の



哈爾濱市の大觀

齊々哈爾・滿洲里に我が領事館あり

面積 約六十三萬方
里(約四萬方
里)
人口 約二百萬

東三省に入れる區域は已に前章に記したるを以て此には述べず



滿洲里の市街

河港市あり、蒙古との貿易行はる。

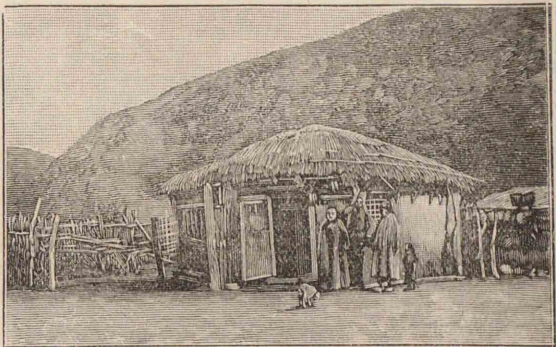
黒龍江省は滿洲の北部を占むる、廣大なる地域にして耕地の開拓次第に進めり。齊々哈爾はその首都にして、海拉爾の附近には牧畜行はる。滿洲里は東北の黒河と共に、國境の要地なり。

第三章 東部内蒙古

總說

所謂東部内蒙古は、現に東三省の行政區域にある一部と、之に接續せる蒙古東南部の地域とを汎稱せるものにして、行政上の區劃にあらず。

興安嶺及びその支脈域内に蹠跼すれども、大部は平野又は臺地をなす。氣候は大



蒙古人の住居

粗造の家屋に住めるもの多く、一般に喇嘛教を信じ、その寺院のある處は住民多く、稍街區をなせり。

蒙古人は羊・牛・馬及び駱駝等の牧

陸性にして、東部は滿洲に類すれども、西するに従ひて寒暑共に酷烈を極め、雨量乏しきを以て、沙漠性を帯べる處少からず。固有の住民は蒙古族にして、嘗て威を東西に振ひしことありしが、今は昔日の倂を止めず。南部には漢人の移住するもの多し。内部の蒙古人は、概天幕に住みて遊牧を營めども、東部にては

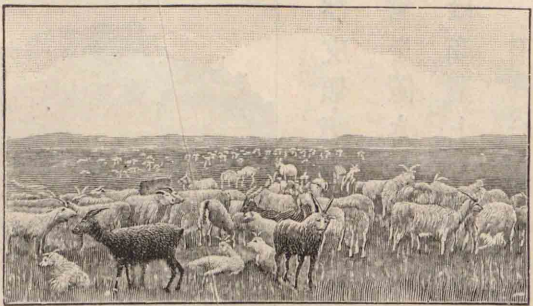


蒙古の喇嘛僧

旗は部落にして王を札薩克といひ殆ど一酋長に過ぎず

東蒙古に左の四盟あり

- 哲里木盟(十旗)
- 卓索圖盟(五旗)
- 昭烏達盟(十一旗)
- 錫林郭勒盟(十旗)

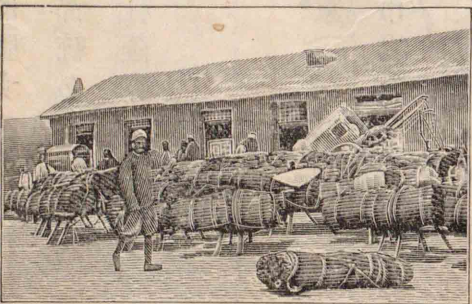


東蒙古の畜牧

畜を唯一の生業となし、農業は殆ど省みざれども、東部南部には沃地少からざるを以て、漢人の移住以來、開拓著しく進みて、黍粟高粱大豆等の農産も次第に増加し、又處々に藥草(甘草等)天然曹達鹽等の産あり。

年交通上の面目次第に改まらんとす。蒙古は歴史上の關係により、數多の旗に分れて各旗に世襲の王あり、數旗は合して盟を結ぶ。されど東部内蒙古は、漢人の在

道路は全く整はず、馬車・牛車等の外、馬・駱駝等を用ひて僅に往來運搬に資すと雖、近

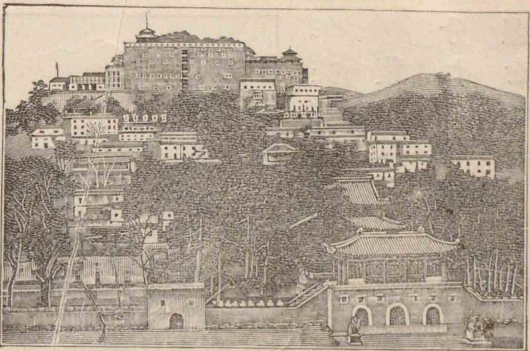


甘草の運搬

東部內蒙古は東三省・熱河特別區域・察哈爾特別區域に分屬す

赤峰に我が領事館あり

熱河特別區域は熱河を首府とし察哈爾特別區域は直隸省の張家口を首府とす



(河熱)例一の廟嘛喇

住多きが故に、東三省に屬する地域の外は、特別行政區域を設け、都統ありて漢人に對する行政を掌り、又各札薩克を監督す。

處誌

熱河特別區域の綏東(小車)は、朝陽と共に滿洲に近接して農産市場をなし、附近の新邱には石炭の産あり。赤峰は西遼河の上流地にありて、交通の要衝に當り、農産物及び皮類・藥草等の集散頗多、熱河(承德)は灤河の上流に位し、清代に離宮を置きたる地なり。察哈爾特別區域の東南部にある多倫諾爾は、商業上の要地を占め、又壯大なる喇嘛廟あるを以て名高し。日本と滿蒙との關係 我が國は、日露戰役の結果、關東州の租借權

を得たる外、滿洲に於ける種々の利權を繼承したるを以て、その關係自他と異なるものあり。我が國は南滿洲・安奉等の鐵道を有する上に、數多の豫定線に對して借款放資權を握り、撫順炭坑は我が國の採掘に屬し、本溪湖の炭鐵、鞍山の鐵鑛、鴨綠江上流地の伐材等は、日支共同の經營に屬す。斯くて、邦人の移住年々増加し、鐵道沿線には、我が國の經營に成れる壯大なる新市街處々に興り、更に近年、東部內蒙古に對して特殊の權利を得、益々活躍の地歩を擴む。



るけ於に洲滿南 究一設施の本日

第二編 亞細亞洲

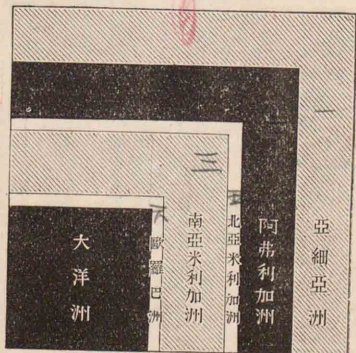
概 説

面積
約四千四百萬
方軒(約二百
九十萬方里)
人口
約八億五千萬
(世界人口の
約二分の一)

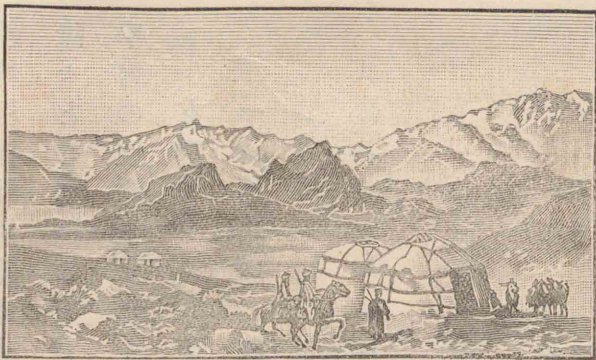
歐羅巴洲は亞細亞洲と共に一大陸塊をなせるが故に之をユーラシアと呼ぶことあり
通常ウラル山脈・ウラル河・裏海・コーカサス山脈を以て歐亞の境界となせども政治上の區劃は之と一致せず

■ 亞細亞洲は世界最大の大陸にして、その面積は全陸地の約三分の一に當る。大陸の殆ど中央にバミル高原あり、雄大なるヒマラヤを始め、多くの山脈此處を中心として四方に延互し、其等の間に西藏、蒙古等の高原を挟みて、一大高地を形成す。平野は中央高地の周邊に發達するが故に、河流も亦諸方に分流す、殊に北部と東部とは、大なる平野・河川多く、西部には鹹湖多し。

■ 面積廣きが上に、地勢錯雜せるを以て、

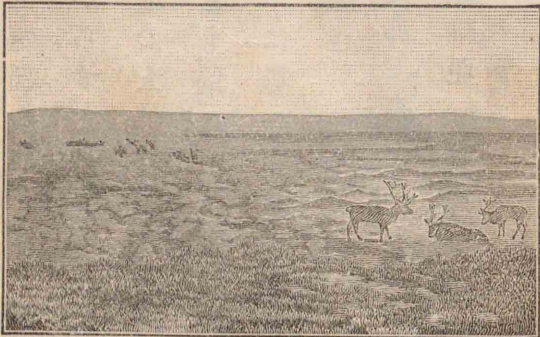
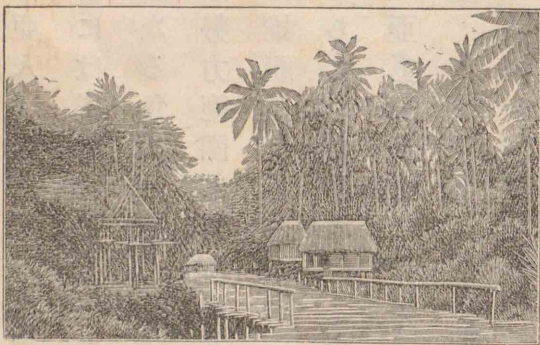


大洲の面積比較



パミル高原

要するに産業の最も發達せるは東部より南部に互れる地方とす。



熱帶地方の村落と凍原地方の光景

氣候は處によりて著しく異なり、南部は高温多濕にして熱帶植物繁茂すれども、北部は沍寒にして廣き凍原をなし、内部・西部は降雨乏しく、沙漠・草野となれる處少からず。

目 住民の大部は、亞細亞人種なれども、南部・西部の地方には歐羅巴種の民族多く、東南部には馬來種族も少からず。是等の住民は、概勢力微弱にして、完全なる獨立國少く、土地の大部は歐米諸國の領地租借地・保護地或は勢力範圍に屬すれども、獨我が帝國は、國運隆々として洲の東方に雄視し、世界の列強中に數へらる。本書は學習の便宜上、本洲を分ちて左の諸地方となす。

- 支那
- マレー諸島
- 印度
- 亞細亞露西亞
- 印度支那
- 西部亞細亞

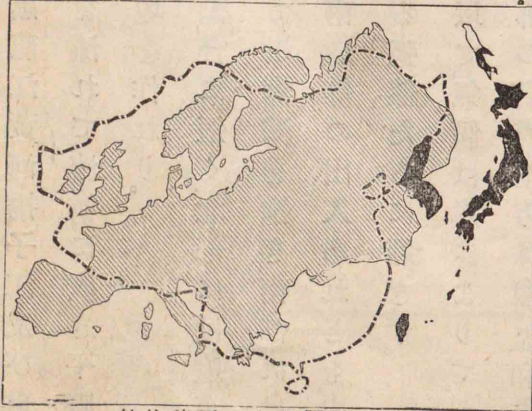
各 説

第一章 支 那 (中華民國)

支那は世界の大國にして、その面積は歐羅巴の全體よりも廣く、之を大別して支那本部・滿洲・蒙古・新疆・青海及び西藏となす。

地形

西部にはヒマラヤ、崑崙山、天山、阿爾泰等の大山脈相連りて、その間に西藏、タリム、蒙古等の高原盆地を挟み、廣き内地灌域をなして、タリム河、伊犁河、青海等、内地系の河湖多し。中部以東は、崑崙山脈より分れたる、陰山、興安嶺、北嶺等の山脈連互し、別に東南に南嶺の連るありて、地



支那と歐羅巴の面積比較

面積

約一千一百万
方杆(約七十
一萬方里)

人口

約三億二千萬
(滿洲を含む)

隣邦

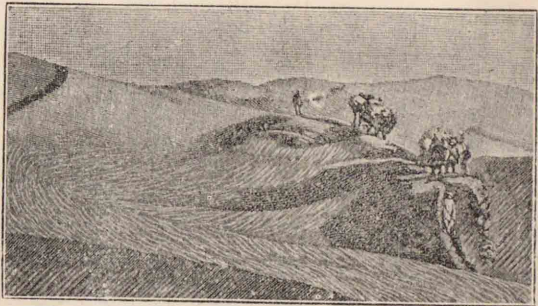
日本・亞細亞
露西亞・アフ
ガニスタン・
印度・印度支
那

支那の面積は英露の全領土に次ぎて世界の第三位を占め我が國の十五倍に餘れり

青海は鹹湖にして琵琶湖の十倍よりも廣し

エニセー河・インダ
ス河・ブラマアト
ラ河・サルウィン
河・メコン河・ソン
コイ河等の上流は
皆支那より發す

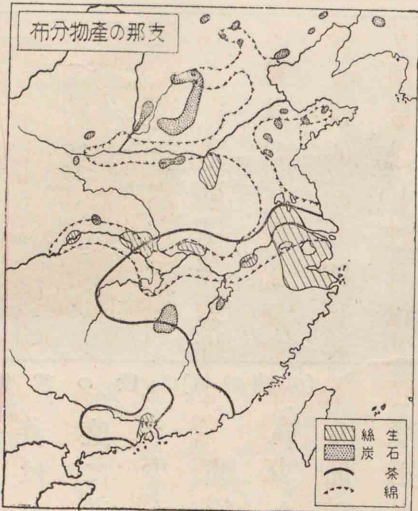
雲南地方は夏日日
當りの溫度華氏百
四十度に上り冬日
日陰の溫度は同零
度以下に下るとい
ふ



(シカマラクタ) 漠沙の部内

形を數多に區分し、黑龍江、黃河、揚子江及び珠
江等の大河、その間を流れて流域に廣き平野
を伴ひ、主要の生産地を作れり。
海岸線は面積の割合に短く、北部には遼東
山東の兩半島ありて、渤海灣を抱き、南部には
廣東、雷州半島、海南島等の出入あれども、中
部は小屈曲を伴へる弧線たるに過ぎず。
氣候 土地廣きを以て、氣候は處によりてそ
の趣を異にす。中部の沿海地方は概し溫和な
れども、南部は熱帶性を帶び、共に季節風の影響を受けて雨量多く、
又夏秋の交、颶風に襲はるゝことあり。北部は冬寒烈しく、河湖
多くは凍結し、内部の高原地方は、大陸性にして寒暑共に極端に走
り、雨量乏しければ、草原又は沙漠となれる處多し。

支那は印度、日本と
共に茶の三大産地
に數へらる



支那の物産分布

北部は畑地廣くして、大豆、高粱、小麥、綿等の産多し。中部
以南は養蠶盛にして、生絲は日本に次ぎて世界主産地の
一をなし、又山東半島附近には柞蠶絲の産あり。

この國は、日本、伊太利と共に世界三大養蠶國に數へられ、揚子江の
下流地方、四川盆地、珠江三角洲等にては最盛に行はれ、殊に珠江附
近は、年六回以上の收繭ありといふ。

産業 氣候、地味等によりて産業も

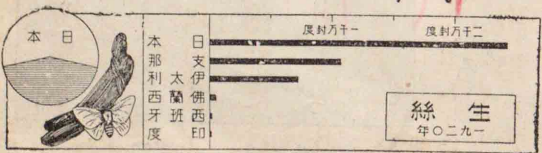
各地異なれども、その方法は一般に
幼穉を免れず。農業は本部より滿

洲に互りて最盛なれども、水利に富

める中部、南部には、水田多

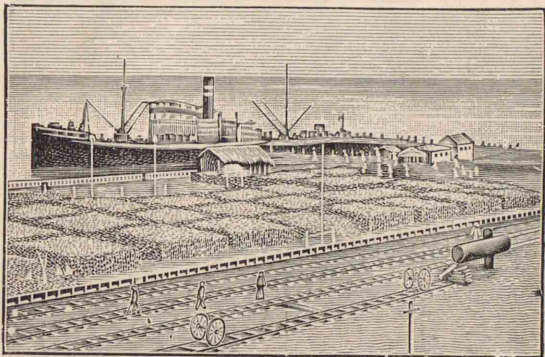
くして米の産に富み、又茶、

綿麻等の耕作盛に行はれ、



整牛は駄用となす
外乳肉を食用とし
毛を織物となす

鳥卵は生卵にて輸
出する外之を以て
蛋粉を製す



鐵礦の積出(桃沖鑛山)

牧畜は高原地方の主業にして、馬、騾、驢等は北部に多く、駱駝、山羊等は沙漠草原に富める蒙古地方に多く、又高峻なる青海、西藏等にては犛牛を飼へり。豚は國民の常食に供するが故に、その數最も多く、本部、滿洲の到る處に養はれ、又本部にては盛に養鶏を營み、生卵の我が國へ來るものも少からず。



牛 犛

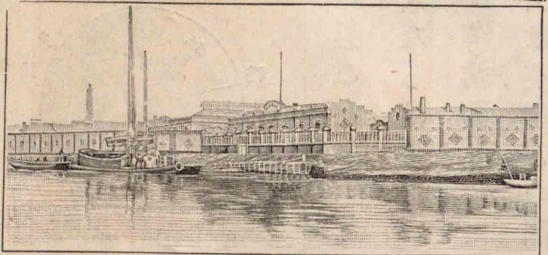
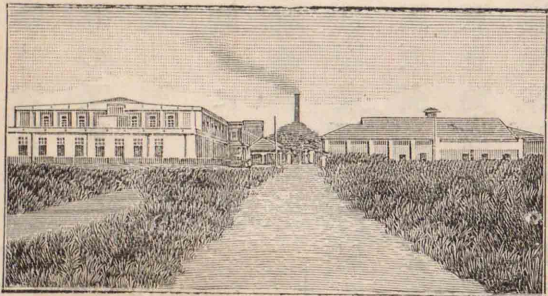
鐵礦物はその種類甚だ多く、且豊富なる鑛區少からざるが如し。中にも石炭は、世界稀有の大炭田を有し、鐵の埋藏も亦無限と稱せられ、その他安質母尼、錫、水銀、石油の鑛

區あれども採掘は概々外人の力により、その他は規模大ならず。石炭は我が國よりの輸入も少からず。

石炭は北部の開平、淄川、博山及び萍鄉等の炭田を主産地とし、鐵は大冶、桃沖、嶺鎮等より産す、中にも大冶は、東洋無比の大鐵山にして、その鑛石は漢陽及び我が八幡製鐵所に原料を供す、是等の炭田、鑛山は開平の外悉く日本と特別の關係を有す。石油は未だ鑿井を見ざるも、陝西及び新疆には、大油田あるが如し。

支那の大工業は官營に屬するもの多く日本人及び歐米人の經營に屬するものも亦少からず

工業は未だ手工の範圍を脱せずと雖、古來の産物たる絹子、緞子、繭綢、綿布、麻布等の織物は、産額頗る多く、その他陶磁器、紙、砂糖、油類等の産も少からず。機械工業は近年漸く發達の機運に向ひ、揚子江の沿岸地方を始



海上の紡績工場と天津の製糖工場

國內の通過に對し
商品に税金(釐金
稅)を課するは商
業發展上の一障害
なり

水産物は國民の嗜
好品なれどもその
産少く概ね我が國
より輸入を仰ぐ

め、天津、青島、廣東、香港等には、造船、紡績、製鐵、製粉、製油等の事業次第に興り、其等の工場には、規模の頗る大なるものあり。

國廣くして人口多く、需用供給共に大なれば、内外の商業頗る盛なれども、各地通貨の一定せざる等の不便あり。天津、漢口、廣東等は、内地商業の大中心たると共に、又大貿易場なれども、外國取引の殊に盛大なるは上海、香港とす。主要の輸出品は、生絲、大豆、豆粕、油類、繰綿、皮革、絹製品等にして、輸入の多きは綿布、綿絲、毛織、雜貨等とす。取引は英國との間に最も多く、日本、米國等之に次ぐ。我が國へは盛に繰綿、大豆、豆粕等を輸出し、我より綿布、綿絲、砂糖、礦物、海産物等を輸入す。

〔交通〕 中部、南部の地方は、河湖多くして水運を主とし、北部の交通は專、陸路によりたれば、古來、南船北馬の語あり。陸路には馬、騾、驢

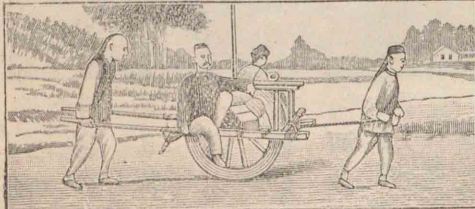
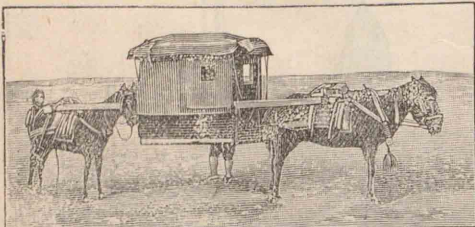


日支貿易
約四億七千七百六十二萬

鐵道は列強諸國の
直接經營又は資本
貸付によりて成れ
るもの多し

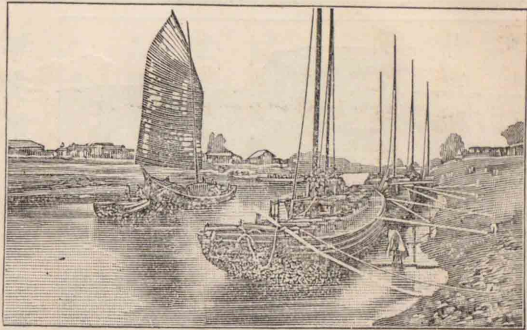
- 1 北京・漢口間
- 2 北京・歸化城間
- 3 北京・奉天間
- 4 天津・浦口間
- 5 青島・濟南間
- 6 上海・江寧間
- 7 雲南・佛領印度
- 8 武昌・廣東間に
山東鐵道は即ち膠
濟鐵道なり

等の外、一輪車、轎等を用ひ、高原山地にては駱駝、犛牛等を使役するに過ぎざりしが、近年次第に鐵道の發達



を見るに至り、鐵道の主要なるは、滿洲にあるもの、外、京漢、京綏、京奉、津浦、山東、滬寧、雲南及び粵漢等の諸線にして、この他敷設中に屬するもの尙多し。

郵便は不完全なれども一般に普及し我が邦人の在住多き處には我が郵便局の設けありしが華府會議の結果之を撤廢することゝなれり
電線は青島・上海及び福州より我が國へ通じ又幾多の海底電線によりて南洋・歐洲・米國等に通じその他西方伊犁を経て歐洲へ通ずるものあり



當り、海外航路は殆ど外船の營む所なり。

住民 支那は世界の古國にして、住民の數甚だ多く、世界人口の約四分の一を占め、その大部は本部及び滿洲に住し、河海に沿へる地方にありては、密度殊に大なり。住民中、最も多數を占むるは漢族に

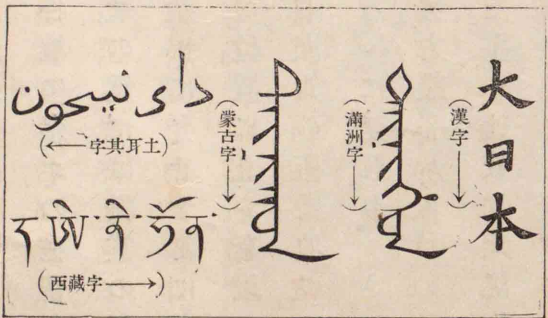
河湖の航運甚だ盛にして、殊に揚子江は多數の支流運河と共に、殆ど中部地方全部に於ける物資の輸送をなし、その航路は日・英・米・支の競ふ所にして、我が日清汽船會社は多數の大江航路を有し、頗る勢力を握れり。名高き大運河は、長き一千二百里(約三百里)に達し、古來水運に至大の便を與へしが、今は荒廢して南部の外は、僅に小舟を通ずるに過ぎず。沿海航路は、上海・香港を大中心として、日・英の汽船多く之に

して、その他通古斯族・蒙古族・土耳其族・西藏族及び苗族等あり。

漢族は支那本部に住して、夙に文明の域に進み、文化の程度は常に他の民族に優越せり。通古斯族は滿洲に多く、近年まで政治上の權力を握りしも、その文明は漢族に化せられたり。蒙古族は蒙古地方に住して喇嘛教を奉じ、往古は勢力頗る強大なりしが、今は遊牧的の生活を營めるに過ぎず。西藏族は西藏高原に孤立して喇嘛教を奉じ、土耳其族は新疆地方に回教徒の團體をなし、苗族は本部の西南部に残れる未開の民族なり。

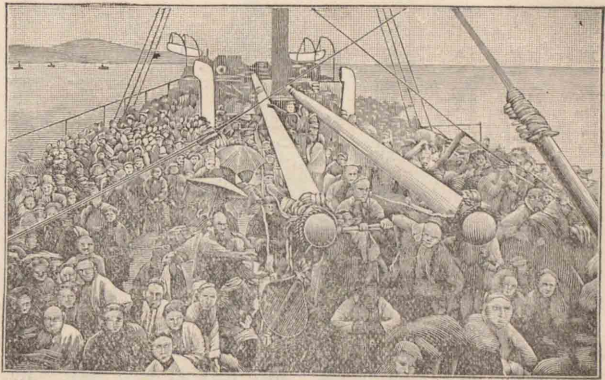
斯く民族の多種なるに伴ひ、文字言語風俗等も亦多様なれば、意思の疏通を缺き、國家の統一甚だ難し。支那の國家が、古來屢王朝を變じたるは、漢族中の政争に因る外、是等諸民族が、その興亡盛衰を

【圖解】 下の文字は何れも大日本にして、矢は讀下の方角を示す



支那に用ひらるる各種の文字

官話にも北京官話
南京官話西方官話
等の別あり



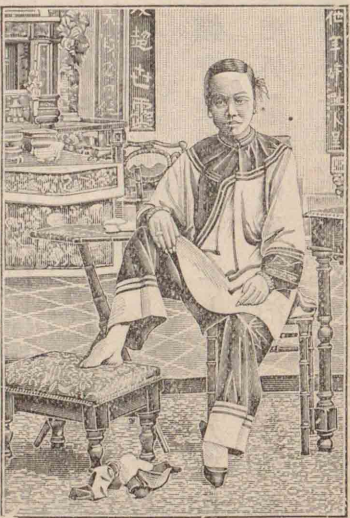
移出の民移

反復したる結果たるに過ぎず。
漢族の文化 漢族は性質勤儉にして、商
業に長じ、營利上の團結心に富めるも、愛
國の念は深からず。海外に出稼するも
の甚だ多く、世界の各地に、殆どその在留を
見ざる處なきも、貨殖の爲には、職業の種
類も勞苦の程度も殆ど意に介せず、常に白
人の勞働者と競争の位置に立つを以て、
彼等の嫌忌を受け、歐洲人の植民地にて
は、その移住を拒まるゝに至れり。され
ど、印度支那及びマレー諸島等に於ては、その勢力頗る大なり。
漢人は漢字を用ふれども、支那語は方言甚だ多く、比較的大部分
の住民に通用するものを官話とす。多數は儒教、道教及び佛教を

文字を書ける紙を
遺棄せず集めてこ
れを焼く風習あり

阿片は國際條約に
より輸入及び耕作
を禁ぜられたり
生水を飲まざるは
この國民の良習な
り

奉じ、又古來祖先の祭祀を尊重す
る風あり。學問は夙に發達した
れども、教ふる所は古聖の遺書と
詩文とにして、文學を貴び、文字を
重んじ、且官吏の養成を目的とす
るに過ぎざりしが、近年教育の制
度を改め、大學校以下各種の學校を設けて、新式の教育を獎勵し、又
多くの留學生を諸國に派遣せり。從來男子は阿片を喫し、女子は
纏足するの弊習ありしが、近年漸く改らんとし、又辮髮の風も、清朝
の没落と共に、次第に廢れんとす。



子女の纏足

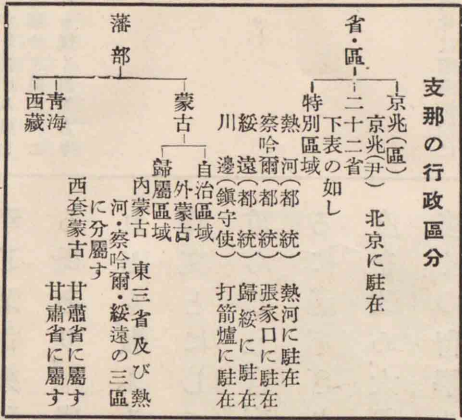
政治 支那は古代より屢王朝を變じたれども、政治は常に君主專
制なりき、然るに明治四十五年、清朝の滅亡以來、國號を中華民國と
改めて共和制を採り、大總統を選擧して元首となす。

大總統は行政を統轄し、立法は參議院と衆議院とにて組織せる民國議會之を行ひ、政務は國務總理を首班とせる國務院の下に、外交・内務・財政・陸軍・海軍・教育・司法・農商・交通の諸部ありて之を分掌す。

地方は支那本部(京兆の外十八省)、滿洲の各省(三省)及び新疆省に省長を置きて行政を掌り、

又概督軍ありて軍事に任ず。内蒙古(三區)と川邊とは、特別區域として中央政府に直隸し、前者には各區域に都統、後者には鎮守使を駐在せしむ。外蒙古、西藏、青海は藩部にして、外蒙古は殆ど自治を許し、西藏は英國との特別關係ありて、中央政府の命令殆ど行はれ

湖	湖	江	安	江	甘	陝	河	山	山	直	(省名)
南	北	西	徽	蘇	肅	西	南	西	東	隸	(首府)
長	武	南	安	江	蘭	西	開	太	濟	天	(省名)
沙	昌	昌	慶	寧	州	安	封	原	南	津	(首府)
新	黑	吉	奉	廣	廣	福	浙	貴	雲	四	(省名)
疆	龍	林	天	西	東	建	江	州	南	川	(首府)
迪	江	吉	奉	南	廣	福	杭	貴	雲	成	(首府)
化	齊	林	天	寧	東	州	州	陽	南	都	



ず。國防は陸軍を主とすれども、極めて不完全にして尙ほ統一の制を缺き、海軍は殆どその實なし。

日支の關係 この國は、我と境土を接し、文字を同らし、昔時我が文化の發達を助けしこと少からざりき。近年極東の政局益々多事ならんとするに當り、福建省不割讓の條約を締結せしめ、滿蒙に於ては種々の利權を得、支那本部に於ては鑛山・鐵道等に投資し、工場を經營し、又揚子江の交通に携はる等、その關係甚だ密なるものあり。彼我の貿易も亦甚だ盛にして、彼は常に我が商品の大顧客たり。今や世界の民族的競争益々激甚を加へ、黃色人種は殆ど到る處白人の排斥を受けつゝある時に當り、日支提携して、國際場裡に優秀の地位を占めんとするの注意と努力とは、目下の最大急務なりとす。

一 支那本部

北部地方 京兆(區)の外、直隸・山東・山西・河南・陝西・甘肅六省の地に於て、大部は萬里長城と北嶺との間に位し、主として黄河の流域に屬す。西部は高原多けれども、東部は廣大なる平野をなし、戸口稠密

面積 約四百萬方里
(約二十六萬方里)
人口 約二億八千萬

黄土は沙漠地方より風の爲に運搬堆積せられたるものにして厚さ數百米に及ぶ處あり屢々絶壁をなし一條の險路その間を通ずる處あり

北京は遼・金・元・明清等の舊都なり

萬壽山は清廷附屬の御園たりし處にして一に頤和園といひ山麓に昆明湖あり排置するに多數の殿閣を以てし我が日光の規模を大ならしめたるが如し



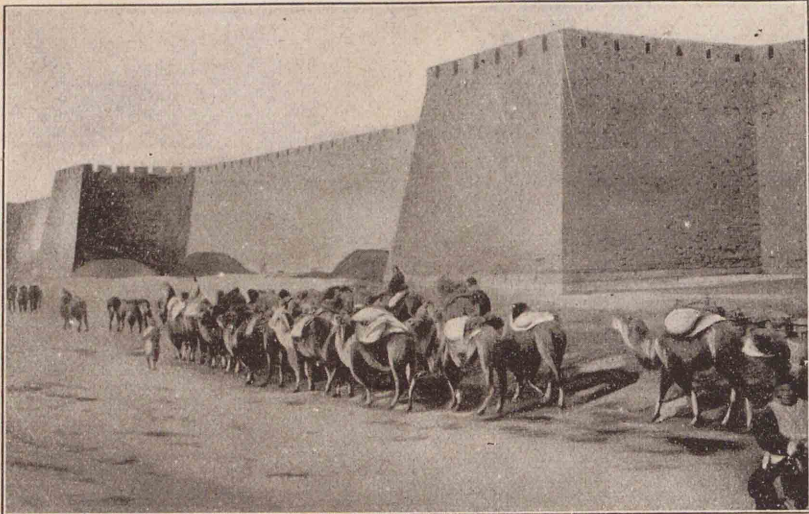
橋 鐵 の 河 黃

にして、高粱・小麥・大豆・綿等の産多し。

黄河は國內第二の大河にして、汾水・渭水・洛河等の大支流を入れ流域甚だ廣く、北支那平野の大部はこの河の三角洲に屬すれども、黄土層の地方を流るゝを以てその水常に黄濁し、且下流は屢々洪水を起して災害を伴ひ、古來河道の變遷甚しく、且舟楫の便に乏し。

直隸省は、北支那平野の要部を占め、京兆その内に含まる。京兆の中部に首都北京あり、周邊に崇大なる城壁を繞らし、廓内を内外二城に分つ。内城には舊皇城・大總統府を始め官衙多く、我が公使館も此處に設けられ、外城は商業區にして、頗る殷賑なれども市街は不潔なり、この北郊に萬壽山あり、林泉殿閣の美を以て著はる。

壁 外 の 京 北



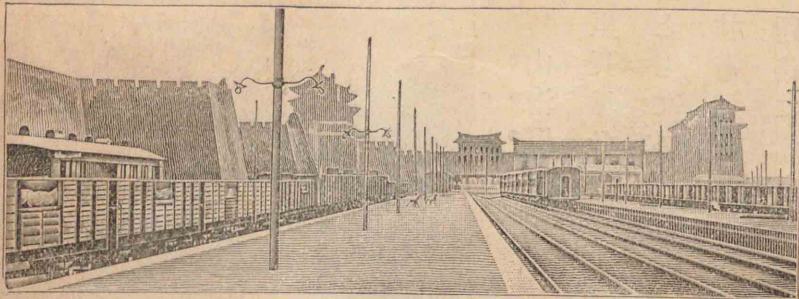
北 京 の 紫 禁 城



閣 船 の 山 壽 萬

大運河の大部は隋の陽帝の開鑿せし所なり

天壇は歴代の天子自ら皇天上帝に對して大祭を行ひたる處にして清代の國祭中最も重じたるものなり



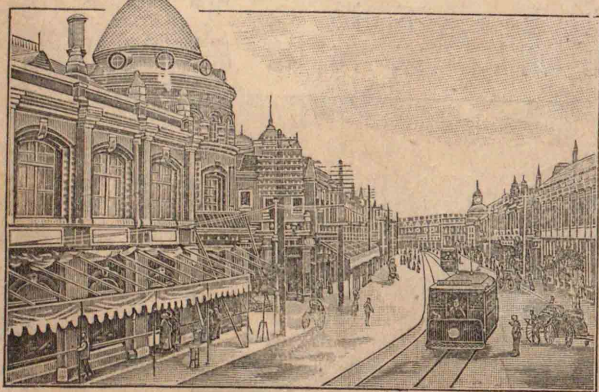
北京城外の停車場

し、北部第一の商港にして、貿易盛大を極め、その繁華は北京を凌げども、冬季は河水凍結の不便あり。大運河は、天津に起りて遠く南方の杭州に達し、古來運輸に資する



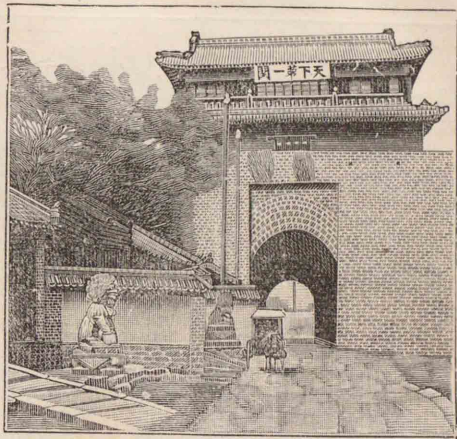
北京の天壇

京奉線に沿へる天津は、白河と大運河との會合點にありて、首都の咽喉を扼

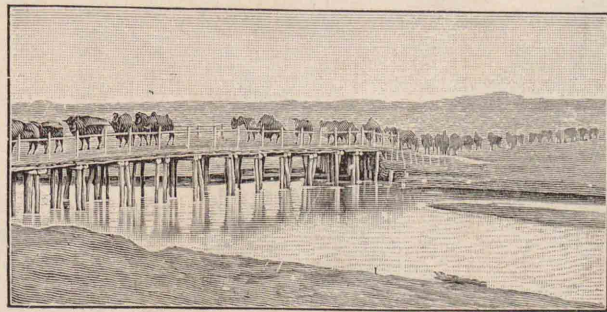


天津の日本街

萬里長城は秦の始皇帝の修築せる所なりにして隋の煬帝の開鑿せる大運河と共に支那の二大工事と稱せらる張家口は察哈爾特別區域の首府なれども市街は直隸省にありて我が領事館あり

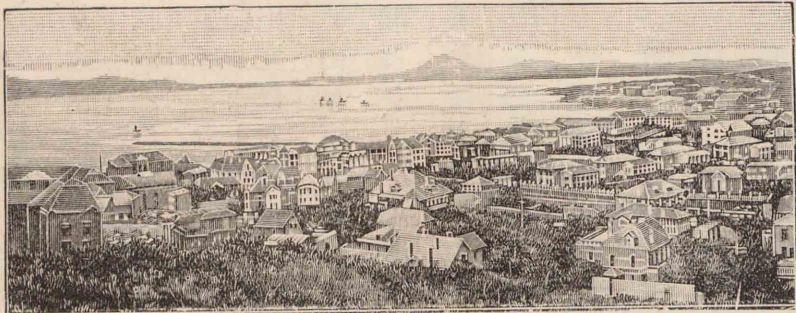


山海關は滿洲通路の要地にして、名高き萬里長城此處より起り、山を踰え谷を渡り、蜿蜒として本部の北邊に沿ひ、三千餘料を距つる甘肅省の嘉峪關に達す。張家口は長城の一通路に當り、蒙古に對する要地にして、北京と



隊駝駱ふ向に京北て經を口家張りよ面方古蒙

濟南に我が總領事館あり
青島に我が總領事館あり



港小のそと觀大の島青

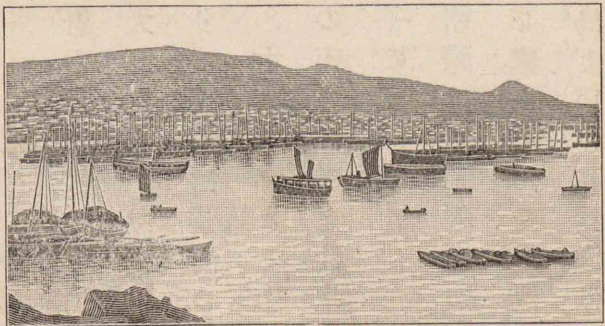
の間、京綏鐵道を通ず。山東省は黄河下流の平野と、丘陵性の半島とより成り、人口稠密にして、大豆、落花生、繭綢等の産多く、又處々に鑛産地あり。濟南は黄河の畔にありて、鐵道の要地を占め、古來著名なる泰山はこの南方に聳え、曲阜には孔子の廟あり。膠州灣はもと獨逸の租借せし處にして、その港市を青島といふ。獨逸はこの地に街衢港灣を經營し、又鐵道を敷設して、沿道の鑛山を採掘する等、その勢

一時は邦人の青島に在住するもの二萬に餘りしが今は一萬二千餘に過ぎず

芝罘に我が領事館あり

英國は華盛頓會議に於て威海衛を支那に還附すべきことを聲明せしが遠からず之を實行する模様なり

力殆ど山東省の大部を掩ひしが、大正三年我が軍の占領する所となり、大戦講和の結果、獨逸が山東に於て有したる一切の利権は悉く我が國に移りしも、我は之を支那に還附したり。青島は大連に比すべき大埠頭にして、落花生、豆油、煙草等の輸出盛に行はれ、この附近には鹽の産あり。山東鐵道の沿道には、濰縣、青州、周村等の商市あり、淄川、博山、坊子は石炭を出し、金嶺鎮は鐵を産す。北岸の芝罘は龍口と共に不凍港にして、關東州との間に船舶の來往繁し。威海衛は、自然の良灣をなし、嘗て支那の軍港たりしが、日清戰役の後、英國の租借地となる。河南省は黄河の平野に移る處に位し、開封



芝罘の海岸

洛陽は東周・後漢・三國の魏等の舊都にして、長安は漢・隋・唐等の舊都なり

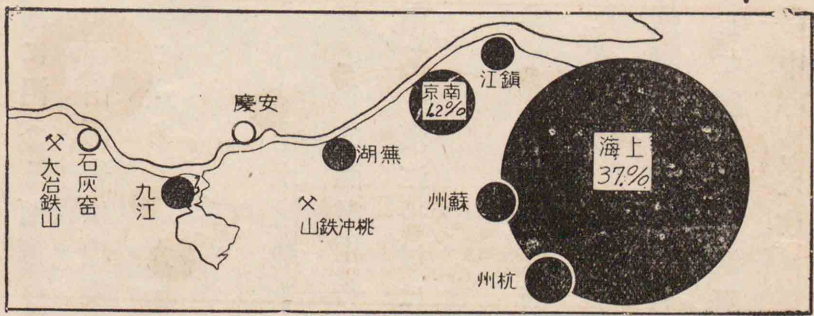
はその屈曲點にありて、古來屢、水害を蒙れり、洛河に沿へる河南は、一に洛陽と稱し、屢、帝都たりし處にして、舊址多し。山西省は地瘦せられたれども、各所に石炭、鐵等の埋藏多く、又綿、鹽等の産あり。太原は要市にして、鐵道を東部に通ず。陝西省は秦嶺山脈によりて南北に分たる。北部は渭水盆地をなし、その中心市たる西安は、一に長安といひ、舊都にして商業稍行はれ、秦の故都たりし咸陽はこの近傍にあり。南部の漢江流域は別に盆地をなし、漢中はその中心市なり。甘肅省は瘠土多くして物産乏しく、人烟も亦疎なり。蘭州は西部交通の要所に位し、西寧は青海に通ずる門戸に當れり。中部地方、江蘇、浙江、安徽、江西、湖北、湖南、四川、貴州、雲南の九省にして、北嶺と南嶺との間を占め、揚子江此處を貫流して、廣大なる沃野を開き、氣候適順にして産物多く、この國經濟上の中心をなす。

江蘇安徽の兩省を合せて江南といひ江西省と共に兩江と稱す又浙江福建の兩省を閩浙といひ是等の地方を總稱して江浙と稱し農業盛にして古來江浙稔らば天下餓ゑずの語あり

上海に我が總領事館あり

揚子江は全長約五千軒約千三百里に及び國內第一の大河にして世界第四の長流なり。鴉隴江、岷江、嘉陵江、烏江、漢江等の大支流多く、洞庭湖、鄱陽湖等の水も亦之に會し、水量豊富にして流緩に、舟楫灌漑の便甚だ廣く、江口より、漢口(約六百哩)までは二千噸の汽船を通じ、宜昌約一千哩までは一千噸の汽船を通じ、五百噸前後のものは、更に上流の重慶(約一千四百哩)まで溯り得べく、その流域は地味肥えて産物多く、沿岸には數多の開港市發達して貨物の集散盛に行はれ、人文發展上の大動脈をなせり。

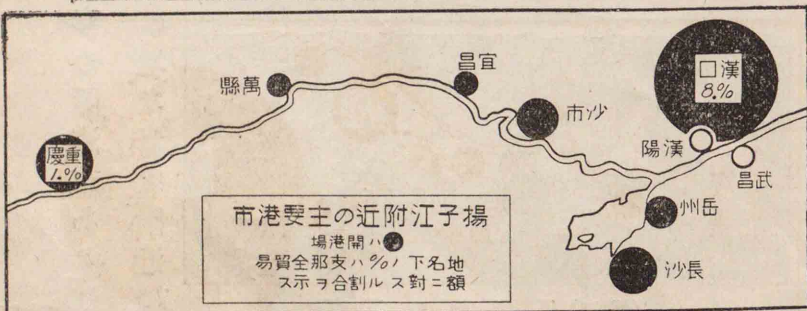
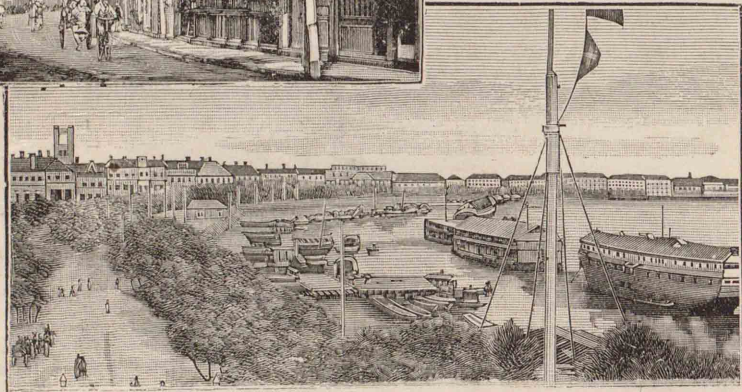
江蘇・浙江・安徽の諸省は、所謂江浙地方の要部に於て、古來農業發達し、米綿等の産多く、養蠶機業亦盛にして、人口甚だ稠密なり。揚子江の口に近く、黃浦江に臨みて上海あり、水陸交通の大中心をなし、東洋第一の貿易港に



して、盛に生絲・茶・線・綿等を輸出す。近年綿絲・綿布の紡織甚だ盛となり、殊に邦人の經營に屬する紡績業は益々有力ならんとし、その他造船・造機・製粉等の工業行はれ、市況繁盛に

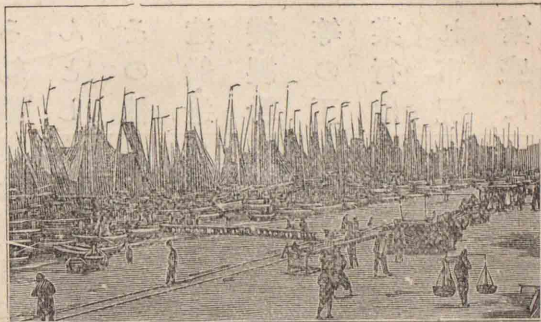


上海の埠頭と支那人街



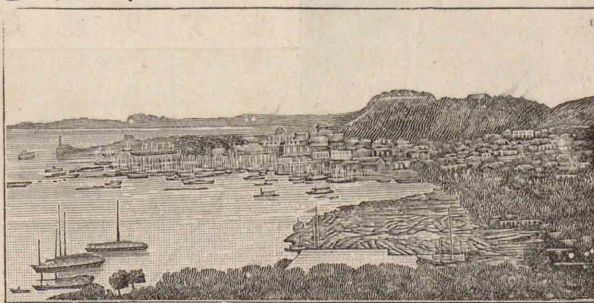
揚子江附近の主要市場
場港開ハ● 下名地
易貿全那支ハ%ノ
ス示ヲ合割ルス對ニ額

江寧に我が領事館あり
江寧は三國時代の建業・明代の應天府なり



船那支の岸江淞吳

名蹟多く、且文雅風流の中心たりしが、近年騒亂の爲に著しく荒廢せり、縑子はこの地



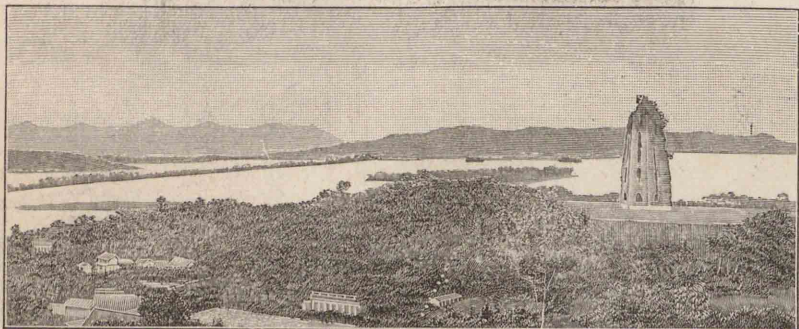
頭埠の江鎮



(關下)區業商の寧江

して、吳淞をその外港となす。江を溯れば鎮江及び江寧の開港市あり、江寧は一に南京と稱し、舊都の地なれば、附近に

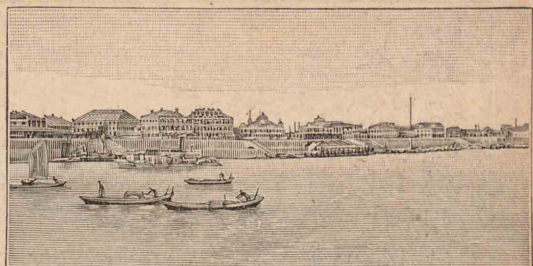
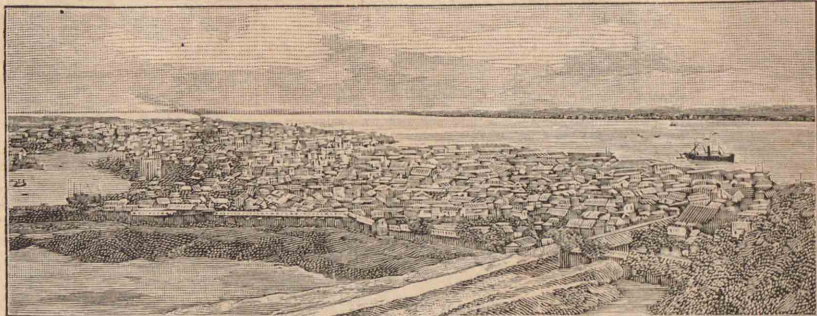
蘇州・杭州に我が領事館あり
蘇州は吳の舊都にして附近に楓橋・姑蘇山・寒山寺等の名地あり
錢塘江の下流は海嘯の奇觀を以て名あり
杭州の東南に當る紹興は紹興酒の名産地にして南方の温州は蜜柑を産す
蕪湖に我が領事館あり
桃冲鐵山は我が製鐵所に礦石を供給す



の名産なれども、今はその業振はず、對岸の浦口は、津浦鐵道の終點なり。鎮江は農産物を集散し、又絹織物を産す、大運河は此處より蘇州を経て杭州に通ず。蘇州は太湖に近く、風光明媚にして、附近に名地多く、盛に絹織物を製出し、無錫は、繭生絲の市場として名あり。杭州は、勝景に名ある西湖を控へて、錢塘江大に臨み、絹織物の産多く、海岸の寧波は、往時我が國と交通の要路たりしを以て名高く、漆器・紫檀細工の産あり。江畔の蕪湖は、米の輸出多く、附近に桃冲鐵山あり、安慶は港市にして、南方の徽州は墨筆の名産地なり。湖北湖南の兩省は、所謂湖廣の地にして、江

九江に我が領事館あり

南潯鐵道は日本に借款關係あり

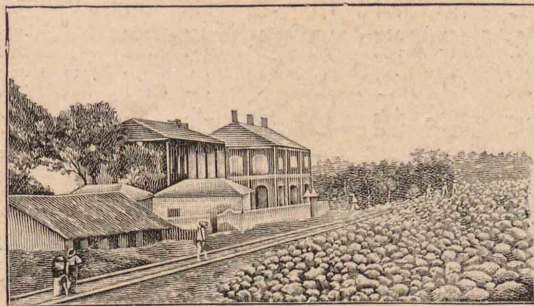


漢口・漢陽・武昌の觀大と漢口の一部

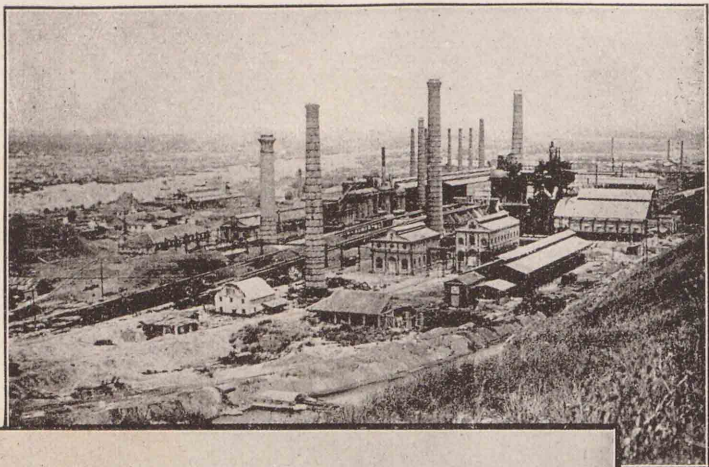
西省と共に揚子江の中流地を占め、土地低くして湖沼に富み、田圃開けて米・茶・綿・麻等の農産多し。

潯鐵道此處より南昌に通ず。東部の景德鎮は著名なる陶磁器の産地にして、西境に近き萍郷は豊富な

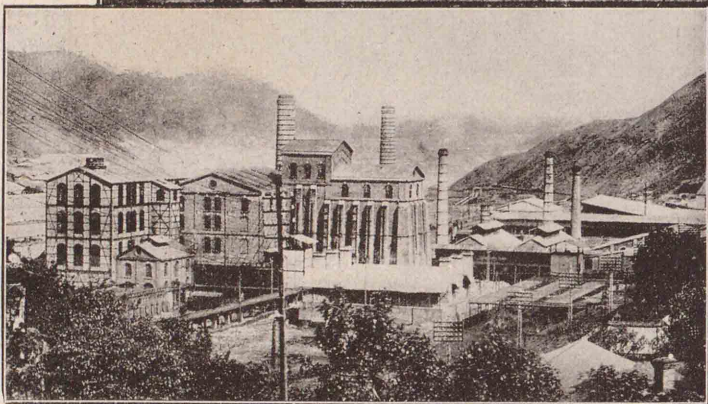
漢江の畔は茶の輸出頗多し。



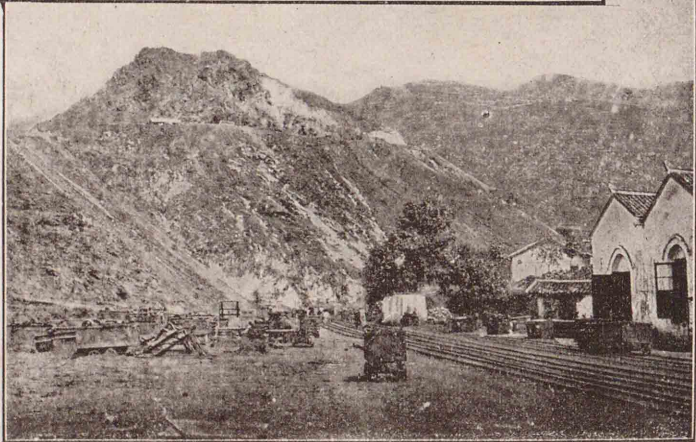
日本製鐵所の大冶出張所



漢陽の製鐵所



萍郷の炭田



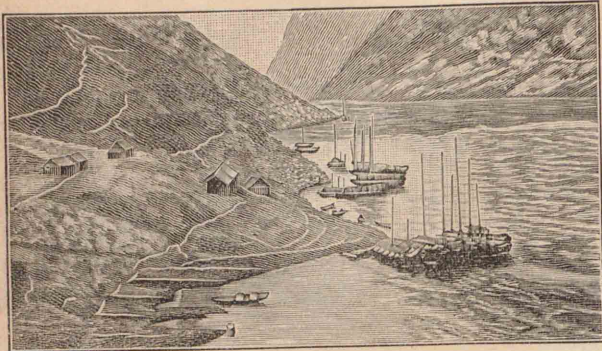
大冶の鐵山

漢口に我が總領事館あり

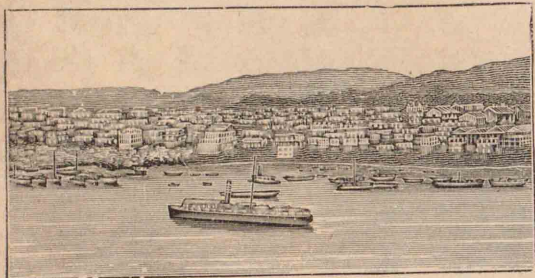
大冶の鐵山・萍郷の炭坑及び漢陽の製鐵事業は漢冶萍公司の營める所にしてその事業は我が國と投資關係あり
沙市・宜昌に我が領事館あり

る石炭の產地なり。

江に近き大冶には著名なる鐵山あり、我が國とは特別の關係ありて、礦石を供給すること多し。漢口は武昌、漢陽と鼎立し、水陸交通の要衝にして、江畔第一の商港をなし、貨物の集散盛にして、茶、綿、油類等の輸出多し。對



(灘新) 流峽の江子揚

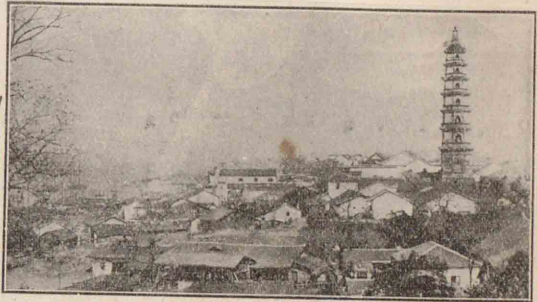


昌業行はれ、漢陽には壯大なる製鐵廠ありて、大冶の鐵礦と萍郷の石炭と望を用ひ、盛に製鐵事業を營めり。

上流の沙市、宜昌は共

岳州に名高き岳陽樓あり
長沙に我が領事館あり

重慶に我が領事館あり



共に重要な港市をなす。

四川省は古の蜀にして、古來天嶮の地と稱せられ、山地多けれども、中に一盆地を開き、農産割合に多く、又處々に鹽井ありて、食鹽を産す。重慶は四川の門戸に當り、江口より約千四百哩の上流に發

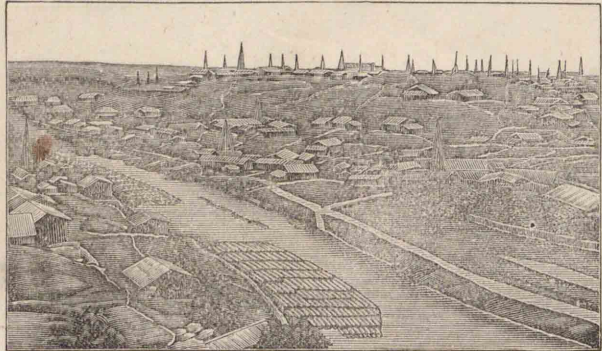
に開港市なり。宜昌より上流は、江水狹窄して處々に急湍をなし、航通に困難多きが故に、岳普通汽船は宜昌を航行の終點となし、更に上州流の溯航には特別型の小汽船を用ふ。江口のを距ること實に九百五十二哩なり。

湖南省の北部は低濕にして此處に洞庭湖あり、沅江・湘江の水を容れて揚子江に會す、この邊は中支勝景の中心をなし湖畔に名所多し。岳州は風景の明媚を以て著はれ、長沙と

成都に我が領事館あり

成都より陝西省に通ずる道路は蜀の棧道といひて古來著名なり

雲南に我が領事館あり



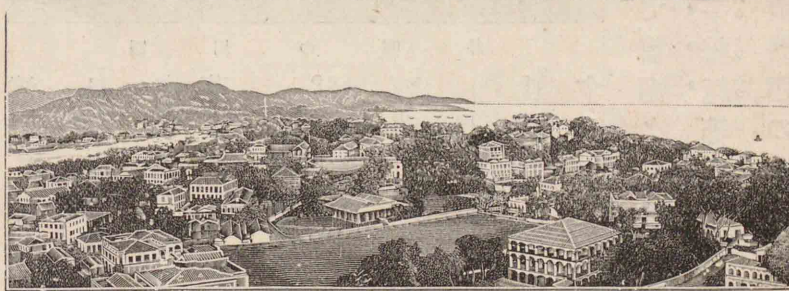
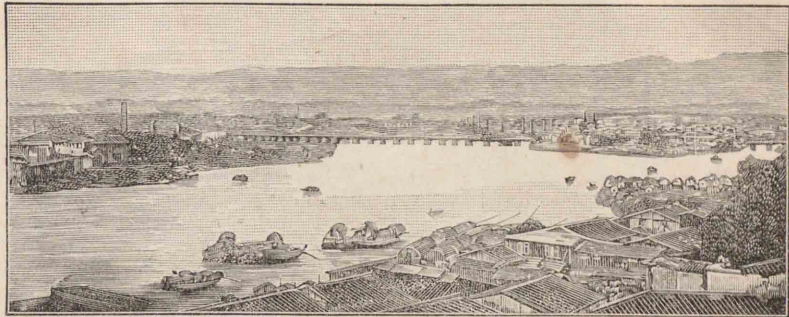
達せる開港市にして、長江航路の終點をなし、貨物の集散多く、成都は盆地の中心市にして機業行はれ、且市街の整美なるを以て川著はる。

四川省の西に隣れる地方を川邊特別區域とす。打箭爐は鎮守使の駐在地にして、西藏に入る要地なり。

貴州・雲南の兩省は、所謂雲貴の地にして、山地多く、交通不便を極め、處々に蠻族の住するもの少からず。貴陽と雲南とはその地方の中心市にして、雲南より佛領印度支那へ鐵道を通じ、又西南の邊境には蒙・自・思・茅・騰・越等の貿易市あり。

南部地方 福建・廣東・廣西の三省にして、概南嶺以南の地を占め、珠

福州に我が總領事館、厦門に領事館あり



(上) 州の街市 (下) 厦門の景観

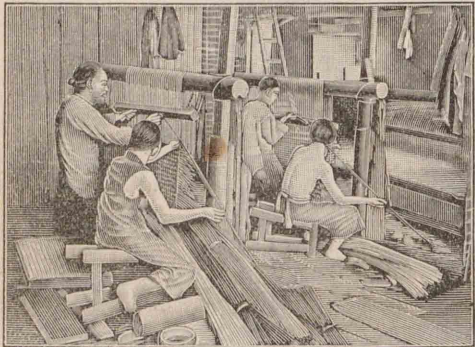
江・閩江等此處を流れ、平野廣からざれども、農産乏しからず。福建省は近く我が臺灣と相對し、軍事上、商業上密接なる關係あるを以て、我が國が不割讓を約せしめたる地にして、茶、砂糖等の産出多し。福州は閩江の下流に沿ひて、馬尾を副港とし、東北の三都澳と共に盛に茶を輸出す。厦門は小島上に位し、茶、砂糖等の

廣東に我が總領事館、汕頭に領事館あり

香港に我が總領事館あり

輸出行はれ、又海外出稼人の此處より出發するもの多し。

廣東省は農産豊にして、又生絲、絹織物華蕙等の産多し。珠江に臨める廣東は、南部第一の大都會にして、生絲の輸出多く、且絹織物を出す、市民の一部には筏



上に起臥するものあり。汕頭は厦門に劣るに劣らざる出稼人の出發地にして、海南島には天蠶絲の産あり。

香港は一小島にして、數十年前英國の領地となりしが、英國は近年更に對岸の九龍半島を領し、又附近の廣大なる地域を



廣東江の岸

租借せり。香港の港市をビクトリアといひ、港灣の設備壯大にして、大船巨舶常に輻輳し、東洋伸繼貿易の大中心にして我が國よりも石炭銅燐寸等を輸入す。近年造船製糖紡績等の工業盛となり、又英國の東洋艦隊は、この地を根據地となす。

澳門(港媽)は葡萄牙に屬し、往時葡國はこの地を根據地として、盛に活動せしが、香港の發達と共に、繁華を奪はるゝに至れり。

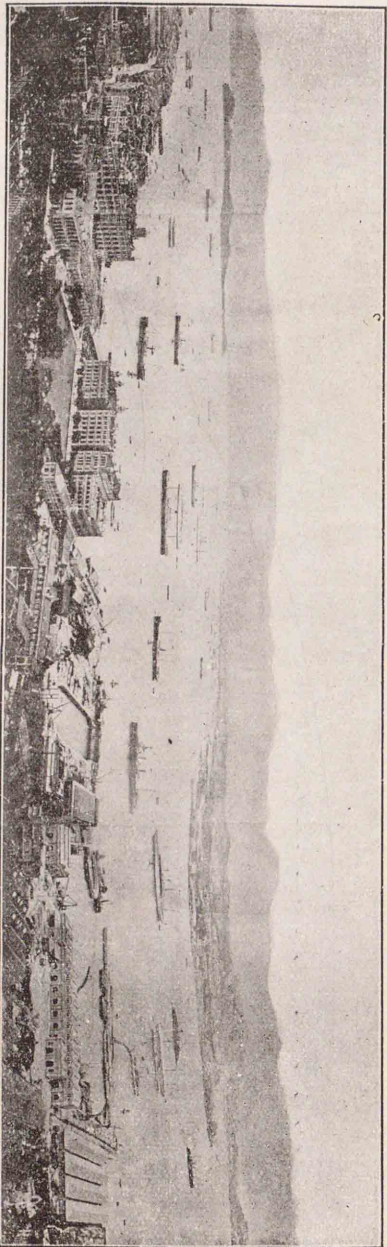
廣州灣は雷州半島の東側を占むる佛蘭西の租借地なれども、政治上、經濟上の價値は、著しく大ならず。

廣西省は苗族處々に住して尙蠻風を存し、重要な都邑少し。珠江に沿へる梧州は、省の咽喉に當れる港市にして、その上流に南寧の開港市あり。龍州は邊境の市場なり。

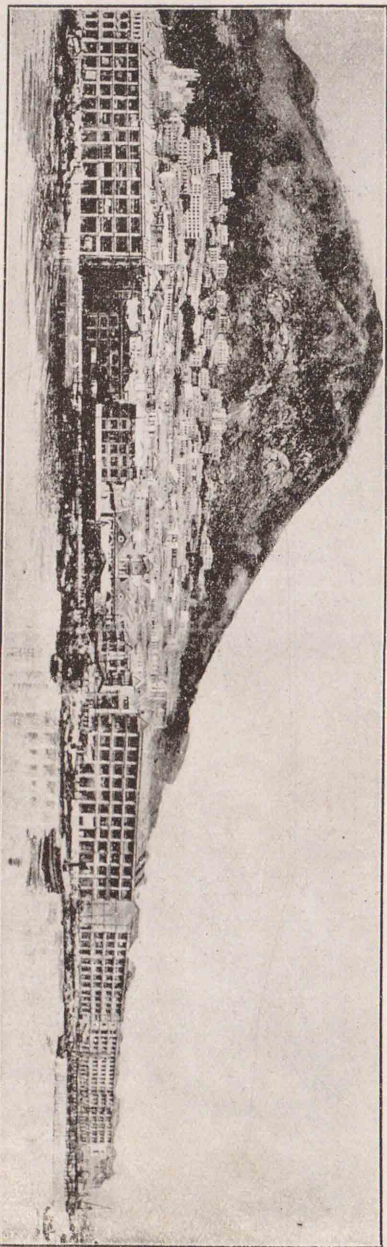
二 西藏青海新疆蒙古

佛國は華盛頓會議の際廣州灣還附を聲明したり

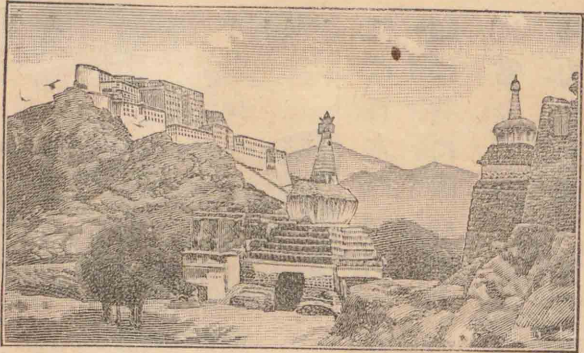
桂林は近時まで廣西省の首府たりし處なり



港 香 爾 々 見 り 上 陸



港 香 爾 々 見 り 上 海



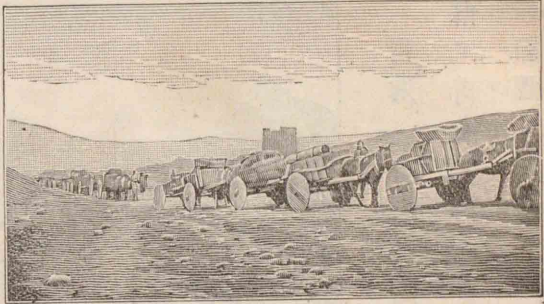
拉薩の噶麻殿堂

西藏 西藏はヒマラヤ崑崙の兩山脈間に挟まれたる地にして、世界第一の高原をなし、南部と東部とは稍開けて、農業及び犛牛の飼養行はる。交通不便なるが上に、外人の入境を拒めるを以て、地理不明の部分多し。拉薩はこの地の中心市にして、附近に壯麗なる喇嘛の伽藍あり、その教主噶麻喇嘛は、兼て政治上の權力をも握り、僧侶は住民の半以上を占む。南境の亞東は印度との貿易地なり。

青海 青海は、山多くして土地開けず、住民の數極めて少し。東部に青海といへる鹹湖ありて、附近より鹽を産す。

新疆 天山山脈殆ど中央を東西に連互して、南路北路の二部に分

迪化は一に烏魯木齊と呼ぶ



搬運物貨るけ於に近附倫庫

つ。天山南路はタリム河盆地に屬し、内に廣大なるタクラマカン沙漠あり。喀什噶爾は西境の要地にして、和闐の附近には玉の名産あり。天山北路の迪化は首府にして、街衢頗整ひ、伊犁は露領との貿易地なり。この地方は、昔時の所謂西域にして、近年沙漠中より、舊址の發掘せらるゝものあり。

蒙古 蒙古の中部はゴビ沙漠をなし、之を境として内蒙古、外蒙古に分る。内蒙古の東部は、日本の勢力大なること既に記したるが如く、西部の歸化城、包頭は、共に隊商取引の要地なり。外蒙古の庫倫は、沙漠横斷の要路に當り、喇嘛教の大寺院あり、その教主活佛は、外蒙古の政治上に頗る權力を有す。賣買城は西比利亞との境に接し、茶の取引行はる。

隣邦
日本・支那・アフガニスタ
ン・波斯・土耳
其・歐羅巴露
西亞

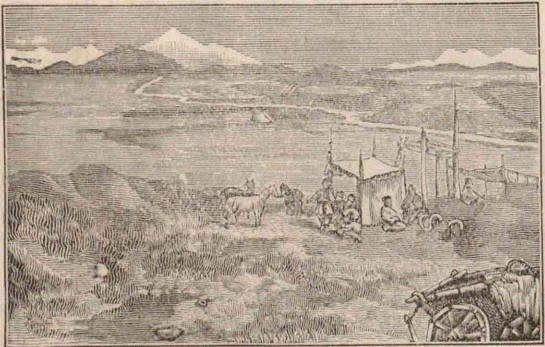
面積
約一千二百三十
十萬方里(約
八十萬方里)
人口
約一千万

第二章 亞細亞露西亞

露西亞は約三百年前より、力を版圖の擴張に盡し、南はイラン地方に接し、東は太平洋岸に達して、亞細亞に於ける領土の廣は、大陸の約三分の一に及ぶ、之を大別して西比利亞、中央亞細亞、高加索の三部となす。

一 西比利亞

地形 北部亞細亞の大部を占め、その面積は我が國の約十九倍に當れり。南境には阿爾泰・サヤン等の山脈延互し、東北にはヤブロノイ・スタノボイ等の山脈連れども、此處より次第に西北に低下して、廣大なる西



原平亞利比西

バイカル湖の最深部は約千三百六十五米に及び世界の湖水中最も深し

ヘルホヤンスクに於ける一月の平均気温は氷點下四十九度なり

比利亞平原をなす。オビ・エニセイ・レナ等の大河、この平野を北流し、獨り黒龍江は東流して、その支流ウスリ河と共に、支那との境をなす。南境に近くバイカル湖あり、洲内第一の淡水湖にして、水深の大なるを以て名高し。是等の河湖は、冬期結氷期の外は、舟運の利頗る大なり。

氣候・産業

氣候は大陸性にして、夏は短かけけれども、気温割合に高く、冬は長くして、寒威酷烈を極め、レナ河流域の一部は、世界の寒極と稱せらる。されば地形の關係と相俟ちて、左の四帯に分れ、産物も自、種類を異にせり。

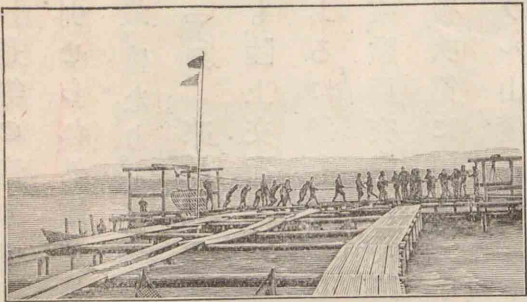
高地帯(東南部の山地) 鑛業發展して、處々に有望の鑛區少からず。

草野帯(オビ河上流の平野) 農業牧畜甚だ盛にして、麥類の産多し。

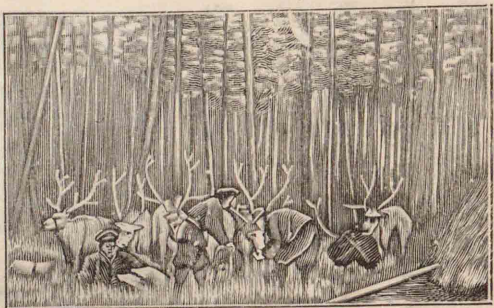
森林帯(東西に互れる中部一帯の地方) 森林繁茂して、毛皮獸に富む。

凍原帯(北極海岸一帯の地方) 年内の大部は地中まで凍結し、全く

毛皮の産は世界第一なり



不毛にして、一部に舊象の牙を出す。草野帯に於ける農牧は、最重要の産業にして、小麥の産夥しく、近年牛酪の製造も著しく發達せり。林地廣けれども、交通不便にして、利用の途未だ開けず、寧ろその中に棲める狐、貂等の毛皮を主とし、金石、炭、鐵等の鑛産も豊富にして、金は最盛に採掘せらる。この他、河湖及び海岸には、漁利多く、殊に東海岸は、鮭、鱒、鱈、鯨、蟹等の好漁場にして、日本人のその漁獲を營めるもの多く、コマンドル諸島は、名高き海獸の繁殖地たり。



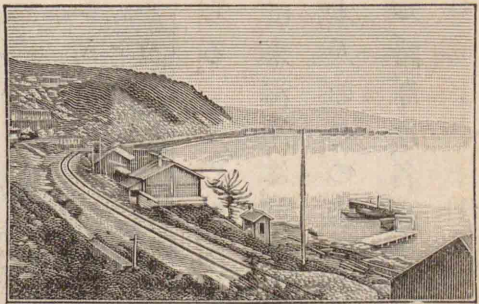
森林地方の光景

是等の産物は、主として定期市によりて取引せられ、外國貿易は、日本及び支那との間に最も盛なり。

西比利亞線より分れてアルタイ地方に通ずる鐵道近時完成したり

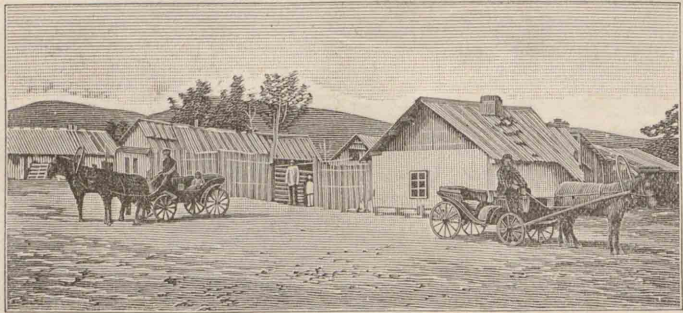
浦潮敦賀の直通船は約四十時間、浦潮・モスコイ間の汽車は約十一日を要す

〔交通〕 凍結期の外は、河湖の水運頗る便なれども、陸上交通は概ね不便にして、馬車及び橇を用ふるに過ぎざりしが、西比利亞鐵道の開通以來、歐亞交通の要路となり、旅客、郵便物等の往復次第に頻繁となれり。西比利亞鐵道は、ウラル山麓のチェリヤビンスクに起り、イルクーツクに達し、外バイカル鐵道、黒龍江鐵道、烏蘇里鐵道等と相俟ちて、ウラヂポストクに通ずるものにして、通常是等を總稱して西比利亞鐵道とも呼び、又是より分るゝ東支鐵道は、我が南滿洲鐵道と連れり。ウラヂポストクは我が國と船舶の往復繁く又海底電線を通ず。



道鐵の畔湖ルカイバ

西比利亞土人にはサモエド・オスチヤク・通古斯等あり



〔住民〕 この地は、もと露國の罪人放流地なりしが、開拓の進歩と共に、自由移民次第に増加し、殊に西比利亞鐵道の開通以來、各種の産業發達して、面目を一新せり。されど人口の密度は極めて小にして、我が北海道よりも遙に疎なり。住民の主腦は露西亞よりの移住民にして、總人口の約九割を占め、土人はその種族多様なれども、人口少く、何れも低度の生活を営めり。

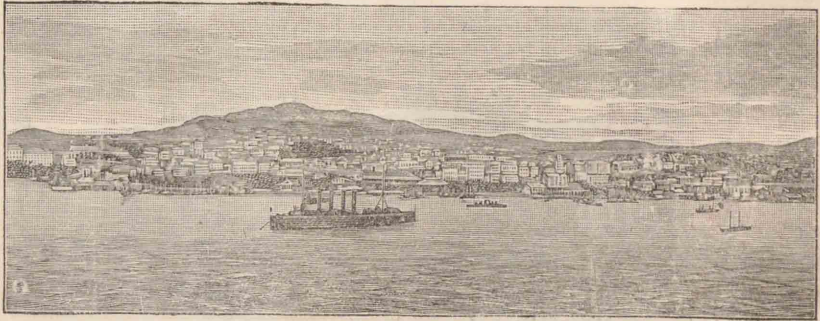
地方に分ちて政治を行ひしが、大戦當時、本國革命の影響を受け、自治政府各

自治地方

- 極東地方
- 沿バイカル縣
- 沿黒龍江縣
- 沿海縣
- カムチヤカ縣
- ヤクツク地方
- 直轄地方
- イルクーツク縣
- トムスク縣
- 外バイカル縣
- 沿黒龍江縣
- サハリン縣
- エニセースク縣
- トボルスク縣

浦潮斯德に我、總領事館あり

ニコライエフスクは嘗て約七百の邦人が虐殺せられたる處なり



望 展 の ク ヲ ト ス ボ ギ ラ ヲ

處に興廢して屢、政變を重ねたり、今は自治權を有する地方と、直轄地方とあれど、何れも勞農政府の治下に屬す。

〔都邑〕 ウラヂボストクは、ベテロ大帝灣に臨

みて東部の大門戸をなし、西比利亞第一の商港にして、我が國との航通上、重要な地點に當

る。冬季は港内凍結するが故に、碎氷船を備

へて汽船の出入に便す、西北のニコリスクは、

鐵道の要地をなす。黒龍江畔のハバロフス

クは、極東地方の首都にして水陸交通の便を

有し、江口のニコライエフスクは漁業の大中

心をなし、邦人の出漁するもの多し。樺太島

のアレキサンドロフスクも亦邦人の在留多

Alexandrovsk

Nikolensk

Nikolisk

Khabarovsk

半島内のクリュチエフ火山は高さ五千米に及ぶ

く、附近より石炭を産す。

カムチャツカ半島は火山多く、土地開けず

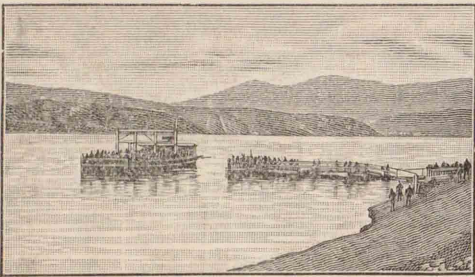
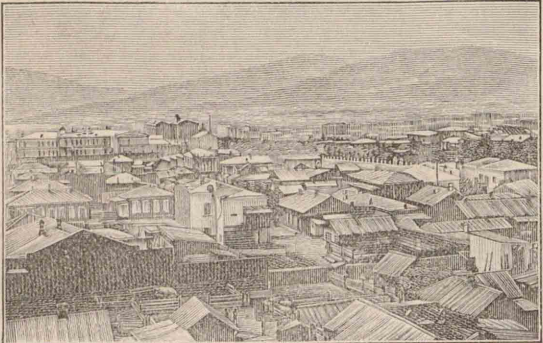
と雖、近海は漁利多く、東岸のペトロパウロフ

スクは、漁船の多く來集せる所なり。

Petrovsk

ブラゴベシチエンスクは、

Blagoveshensk

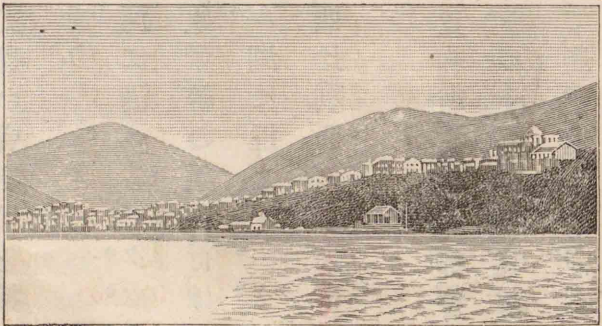


場船渡江龍黒の近附クスンチレトスと街市のタチ

重要の河に、附近に金の産地多く、カルイムスカヤは鐵道の分岐點に當り、この東方にネルチン

Nerchinsk

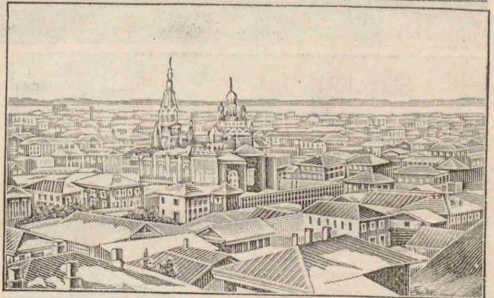
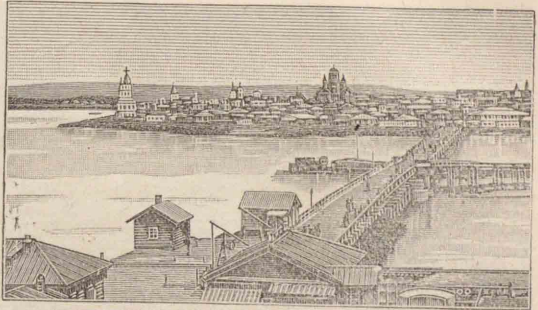
Karymskaja



岸海のクスフロウバロトベ

バイカル湖に近き
ボダイボは近年金
産の爲に著る

バルナウルは近時
アルタイ鐵道の敷
設により益々重要
の地となれり
オムスクは大戦役
中一時政治上重要
なる中心となりた
る地なり

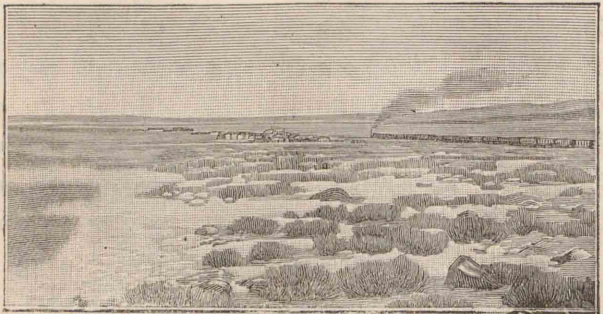


街市のクスムトと望遠のクツークルイ

ス・ク・ス・ト・レ・チ・エ・ン・ス・ク等の名
邑あり。チタは近時まで極
東政府のありし處にして、キ
フタは支那の賣買城と接し、
貿易盛なり。
レナ河に沿へるヤクツク
は、毛皮象牙等の集散行はれ、
バイカル湖に近きイルクー
ツクはアンガラ河に跨り、西
比利亞の中央市場

にして、商工業の重要なる地點を占む。
トムスクは西比利亞鐵道の支線を通じ、西比利亞第一の都會に
して、大學、博物館等の設けあり、南方のバルナウルは鑛業の中心を
なす。オムスクは西比利亞鐵道の要驛にして、農業地方の中心に

面積
約三百五十萬
方秊(約二十
三萬方里)
人口
約千百三十萬



草野地方の光景

位し、農産畜産の集散多く、トボルスクはオビ
河舟運の要地なり。この邊は産業頗る發達し
て、西比利亞の穀倉と稱せられ、人口密度も他
に比して大なり。

二 中央亞細亞

西比利亞の西南に連り、草野・沙漠廣くして、
鹹湖に富み、アム河・シル河此處を流る。北部
の草野には、土人の遊牧をなせるもの多く、南
部の河岸には、農耕養蠶行はれ、殊に近年綿の
栽培増加せり。この地も露國の革命後、各民族自治を唱へしが、そ
の主なるはキルギス及びトルキスタンにして、今は自治州として
共に勞農露西亞の一部をなし、外にヒバ・ボハラ

サマルカンドには蒙古人の英雄として知られたる帖木兒の墳墓あり

キルギス自治州は歐羅巴のオレンブルグを首府とす

面積	約四十六萬方
里	約三萬方
人口	約一千二百萬

勞農政府の治下に屬す。外裏海鐵道は、裏海岸より起りて域内を東西に通じ、歐洲より直通の中亞細亞鐵道之と會す。

タシケントはトルキスタンの首府にして、地方の要市をなし、サマルカンドは帖木兒の舊都なり、共に隊商取引行はる。

メルブは鐵道の要地にして、クラスノボドスクは裏海の要港なり。東北のセミバラチンスクはキルギスの名邑とす。

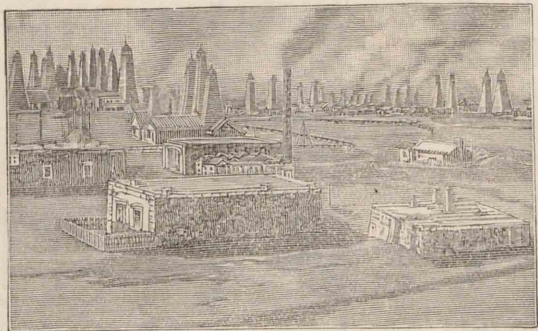
三 高加索地方

高加索山脈殆ど東西に連り、その南部は豊沃にして農牧行はれ、又石油の産多し。住民は數多の民族混淆し、風俗雜多なり。この地



ボハラの土人

アゼルバイジャンは我が北海道よりも稍大きくシヨ。イジヤは殆ど北海道と等しき面積を有す



ニヤの首府エリバンを経て、東南に通ず。

第三章 印度支那

Indo-China

西藏より續ける印度支那山脈は、數條の竝行脈となりて殆ど南北

方は、世界大戰の結果、アゼルバイジャン、ジョージア、アルメニア等の小獨立國起りしが、其等國聯盟に加入せり。

裏海岸のバクは、アゼルバイジャンの首府にして石油の大産地として著はれ、チフリスはジョージアの首都とす。高加索鐵道は是等の地を連ねて、黒海岸のバタムに通じ、又チフリスより分れたる一線は、アルメ

暹羅人は男女共に毛髪を短くし一見男女を識別し難し起ては男にして幼児を抱けるは女なり



暹羅人の男女

にして乾濕の二季に分れ夏季は降雨甚だ多し。

固有の住民は、印度支那族にして、

その數最も多けれども、怠惰にして進

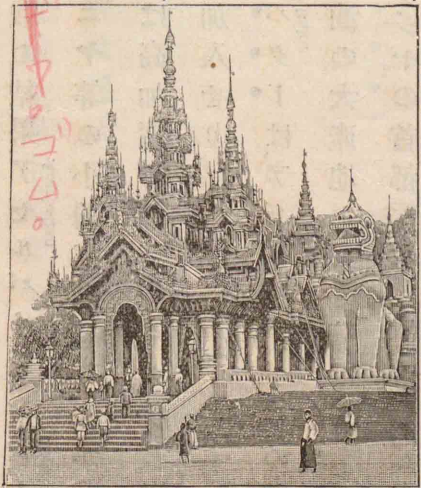
取の氣に乏しく、産業上の實權は、移

住支那人及び英佛人等の手に握ら

る。一般に佛教を信ずること厚く、

莊麗なる寺院の多きは、この地方の

異觀たり。



寺の院の壯觀

南京米と稱して我が國に輸入せらるる外國米は概ねこの地方より産す

印度支那には、往時數多の邦國ありしが、今は暹羅の獨立を保てるのみにて、東部は佛蘭西の治下に屬し、西部及び南部は英吉利の領土となれり。

佛領印度支那

半島の東部を占め、交趾支那

の植民地とトンキン(京)安南・カンボヂ(東)ラ

Tongking Annam Cambodia

オス(老)等の保護地とに分る。佛國の領土中、

Laos

最重要の地なれば、總督を駐在せしめ、又鐵道

を支那の國內に延長して、益勢力の伸張を圖

れり。域内は山地少からざれども、河岸には

廣き沃野ありて、米の産多し。

安南の田舎

Songkoi

Ianoi

地にして、總督此處に駐在し、下流のハイフン

(防海)

を副港として、米の集散盛に行はる。安南

Haihuong

面積

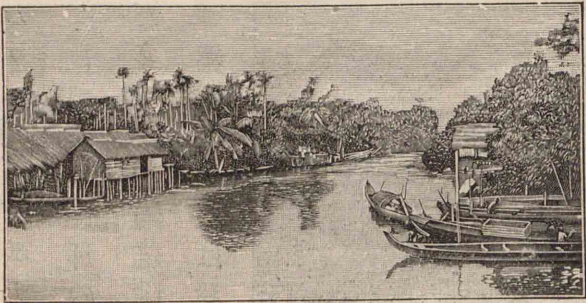
約六十七萬方

千(約四萬三

人口

約千七百萬

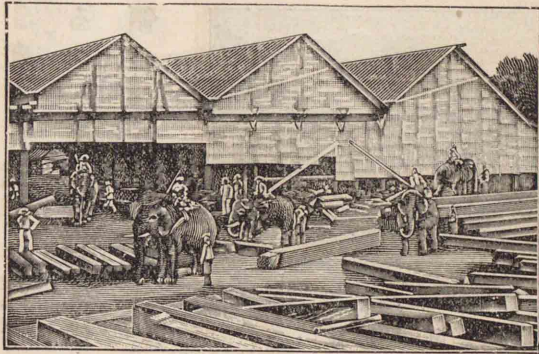
ハイフオンに我が領事館あり



西貢に我が領事館あり

面積 約五十萬方軒 (約三萬三千方里) 人口 約九百萬

宗教上の關係により特に白象を崇拜する風習あり

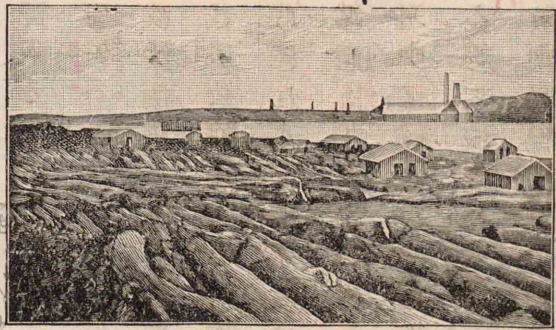


搬運の象

のユエ(順)カンボヂャのプノムペン(西)は、共に王都にして、交趾支那のサイゴン(西)は、米の輸出甚だ多く、又佛國艦隊の根據地なり。

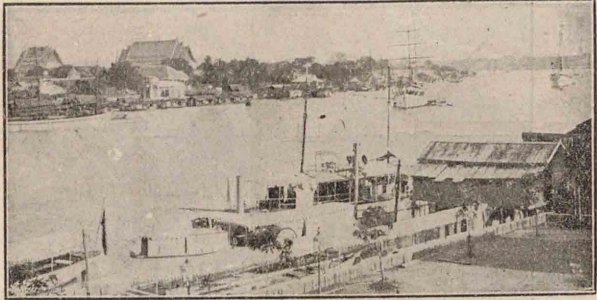
暹羅 面積は我が國の約七割に當れども、人口は僅に一割に過ぎず。嘗て山田長政が武名を轟かしたる地にして、古來彼我の關係淺からず。

メナム河國內を流れて、沃野を伴ひ米穀の産甚だ多く、上流の山地よりはチーク材を出し、共に主要の輸出品にして、我が國も米チーク材を買ふこと少からず。象は水



送輸の材クーク

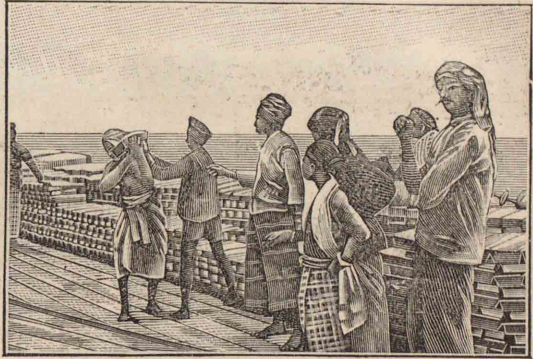
盤谷に我が領事館あり



屋家上水の河ムナメと街市の谷盤

牛と共に重要な家畜にして、耕作運搬等に使役せらる。この國は專制王國にして、頻りに先進諸國の文明を入れ、諸制度の改善を計れり。住民は暹羅人の外、支那人、馬來人、多く、支那人は農商の實權を握れり。國民は熱心に佛敎を信じ、貴賤の別なく、一度は佛門に入る風あり。

首府盤谷は、メナム河に跨り、政治・商業の中心地にして、我が公使館あり、市内には莊麗なる寺院多く、金色燦然たる尖塔は處々に聳え、河中には水上家屋の並べる等、この地の異觀をなす。河口のバクナムは

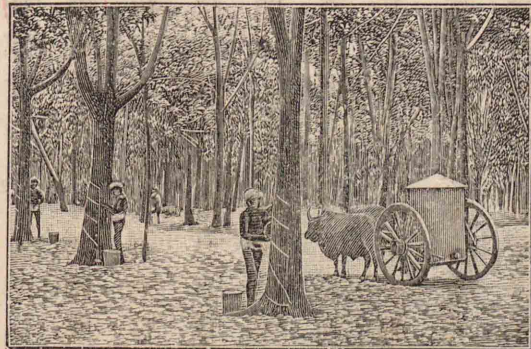


その外港にして、上流のキヤンマイは、チーク材取引の中心地とす。

英領印度支那 緬甸及び海峽植民地の二領地と、保護領たる馬來聯合州とに分る。

錫の 緬甸はもと獨立の王國なりしが、今は政治上印度帝國の一部をなす。低

地はチーク材・紅玉・石油等を出す。イラワヂ河畔のマンダレイは舊都にして、寺院の壯觀を以て名高く、河口のラングーン(實)は副總督の駐在地にして、米・チーク材等の輸

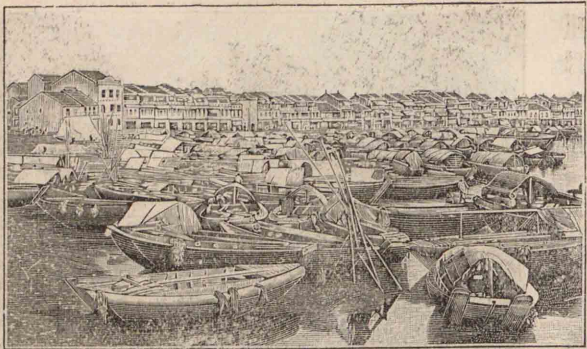


收採の液談護

ラングーンに我が領事館あり

海峽植民地はシンガポール・ペナン・マラッカ等より成る

シンガポールの住民は甚だ多種なれども支那人過半を占む
シンガポールに我が總領事館あり
ペナンの港市をジョージタウンといふ



岸海のルーボガシ

出甚だ盛なり、我が汽船も此處に寄港す。馬來聯合州は、マレー半島を占むる英國の保護地にして、その海岸に散在する要地と、附近の島嶼とは海峽植民地をなし、英國の直轄に屬す。馬來聯合州は護謨、錫、コブラ、香料等の産甚だ多く、殊に近年護謨樹の栽培著しく發達し、邦人の之に従事するもの少からず。シンガポール(新嘉坡)は、マラッカ海峽の咽喉を扼する自由港にして、貿易盛大を極め、我が航路の此處を経由するもの多く、ペナン(南)は良港を有して、我が船舶も時々寄港せり。

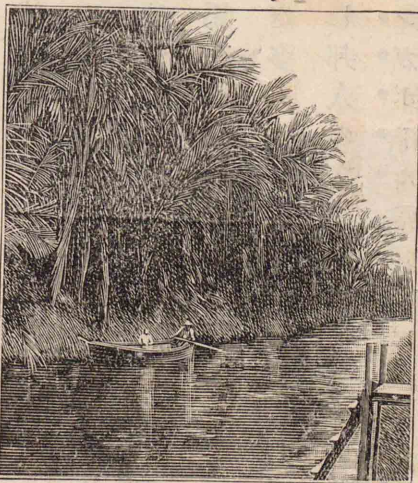
第四章 マレー諸島

ジャワ島には現に三十餘の活火山あり
スンダ海峽のケラカトウ島爆裂の時は殆ど全世界の氣界を混濁し大津浪を起して四萬の死者を出せり



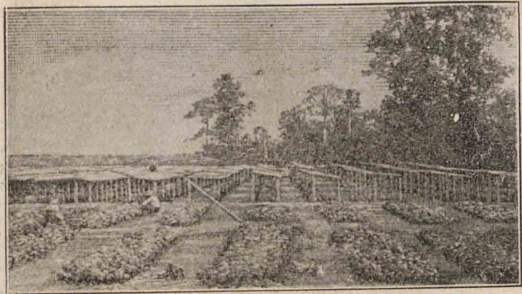
マレー地方の村落

亞細亞大陸の東南に散在せる群島にして、一に東印度諸島とも稱す。域内火山多く、屢地震の起ることあり。赤道は殆ど中央を横斷して、土地の全部熱帯に屬し、温度高く、雨量多きが故に、椰子樹・サゴ椰子・香料・籐等の熱帶植物繁茂し、砂糖・煙草・珈琲等の産出多し、又狸・猿・



サゴ椰子

極樂鳥等の奇獸珍禽少からず。住民は馬來族を主とし、回教廣く行はると雖、支那人も亦多く、本邦人の移住も次第に増加せり。



スマタラ島の煙草(上)と甘蔗(下)

この地は全部歐米諸國に分屬し、殊に和蘭は、スマトラ・ジャワ・セレベス・ボルネオの大部等を領し、之にニューギニア(大洋洲の一部)の西半を加へて、蘭領東印度と稱す。その他フィリピン諸島は米國の領土にして、ボルネオ島の西北部は英國に屬し、チモール島の一部は葡萄牙に屬す。

和蘭領 スマトラ島は煙草・石油等を産し、パレンバンはその市場なり。バンカ島・ブリツン島は共に錫の産多きを以て著はる。ジャワ島は山地多けれども、海岸には肥沃の平野ありて、産業發達し、米・甘蔗・珈

規那は世界全産の約三分の二を産す
バタビヤに我が總領事館あり
バタビヤの附近にポイテンゾルグ大植物園あり
スラバヤに我が領事館あり

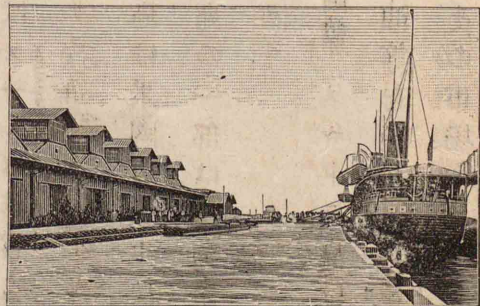


街市のヤバラス

規那香料等の産多く、人口も亦稠密にして、蘭領諸島中の主腦をなす。バタビヤは總督府の所在地にして、主要の商港をなし、中部のサマラン及び東部のスラバヤと共に、我が國と航路を通ず。
Surabaya

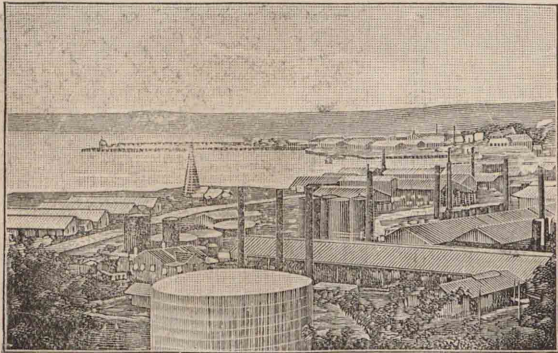
セレベス島のメナド附近には邦人の經營せる椰子園あり
バリ島とロンボク島との間を通ずる虚線はウオレス線といひ動物分布上の境界をなす

島とす。セレベス島にはマカッサルの良港ありて、多く附近の産物を集散す。ボルネオ島は世界第三の大島にして、内地の大部は尙未開に屬すれども、金、金剛石、石油等を産し、殊に



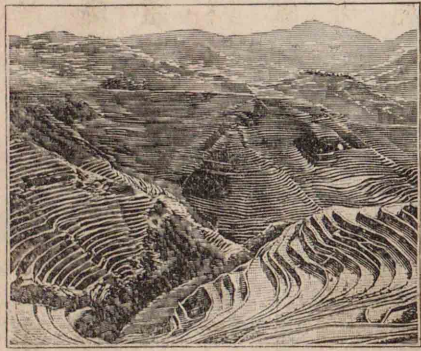
頭埠のルサッカマ

サンダカン附近には邦人の經營せる護謨林あり



Labuan

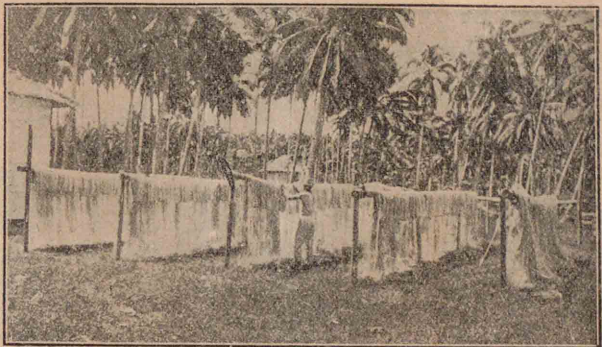
す。近海のラブアン島は、海峽植民地知事の治むる所にして、石炭の産あり。
米國領 フリピン諸島は數多の島嶼より成り、殊に大なるをルソン(呂)島、ミンダナオ



田水の島ソルルせなを狀段階

フリピン諸島は面積約三十萬方軒(約二萬方里)人口約七百六十萬あり

フィリピン諸島は
西班牙の領土なり
し、米西戦争の結
果米國の所領とな
れり
コブラは椰子實を
乾したるものなり
マニラに我々總領
事館、ダバオにそ
の分館あり



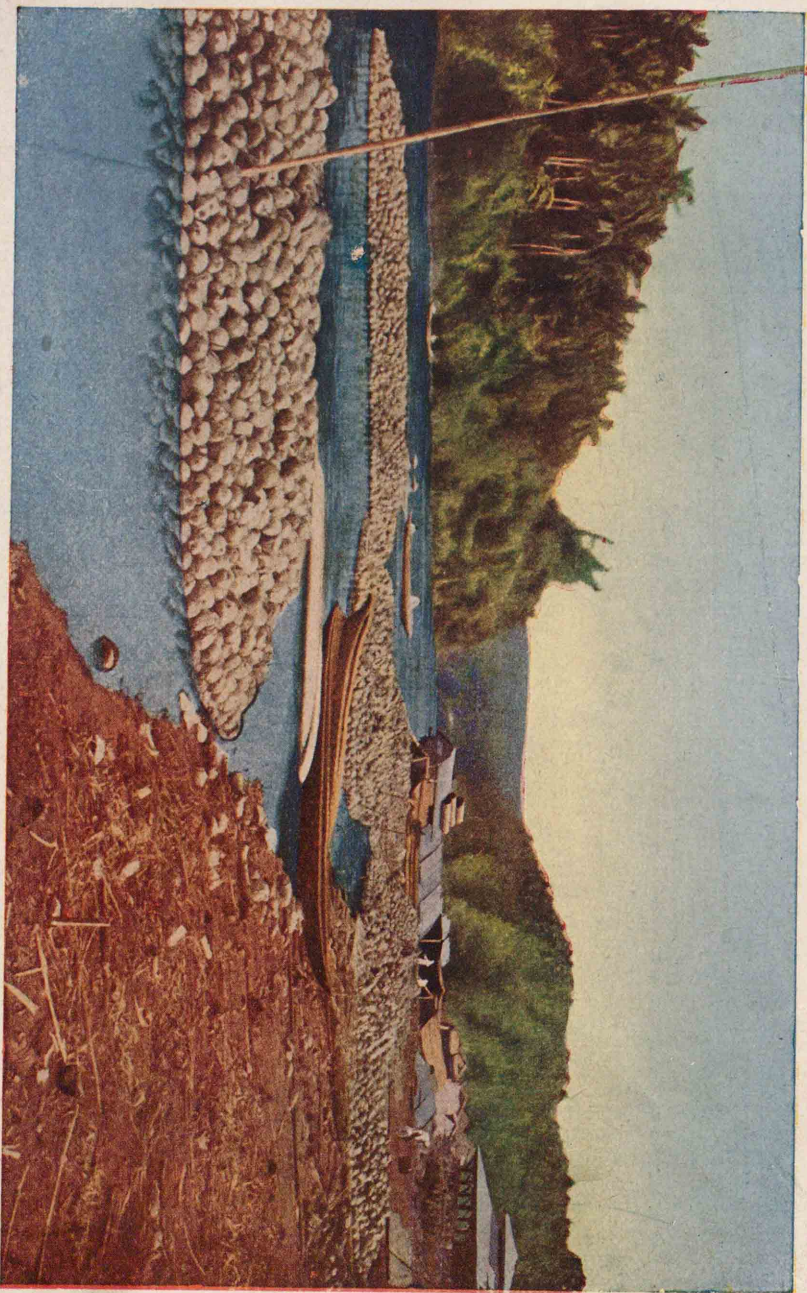
なし、我が航路此處に通ず。

第五章 印度

島等とす。農業甚だ盛にして、甘蔗糖煙草
マニラ麻・コブラ・珈琲等の産多し。首府マ
ニラ(馬尼)は南洋交通の要地にして、島内産
物の輸出多く、我が汽船の寄港地に當り、太
平洋横斷電線も此處
より起る。ミンダナ
の
乾
燥
の
麻
ラ
ニ
マ
オ島のダバオは、邦人
の經營せる農林業の
中心にして、ザンボア
ンガは南部の要港を



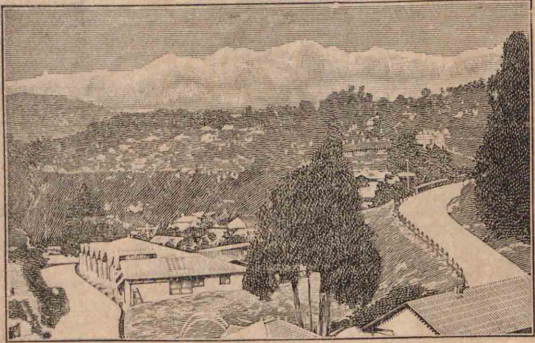
マニラの埠頭



比 律 賓 於 是 終 焉 之 子 孫

面積
約三百八十萬
方里(約二十
五萬方里)
人口
約三億二千萬
隣邦
印度支那 支
那 アフガニ
スタン ベル
チスタン

エベレスト山の海
抜は約八千八百四
十米、及ぶ
ブラマプトラ河の
下流地方は世界の
多雨地として著し
れ一年間の雨量一
萬一千耗に達する
所あり



街市のシリジータ

地形 印度洋中に突出せる大半島にして、その面積は我が國の五
倍に餘れり。北境にはヒマラヤ山脈連りて、世界の最高峰エベレ
スト山を始め、數多の高峰並び聳え、頂上は常に白雪を戴きて、壯大
なる氷河を作り。南部にはデカン高原あり、東ガッツ、西ガッツの山
嶺、その縁端に連る。
Ganges
Hindustan
Deccan
Ghats

南北の兩高地間は、ヒンドスタン平原に
して、ガンジス河、ブラマプトラ河等、此處を
流れ、西部にはインダス河あり。海岸は單
調にして、南端にセイロン島あり。
Indus
Ceylon

氣候 氣候は一樣ならず、高地は溫和にし
て避暑の好適地なれども、大部は熱帶性に
して、氣節風の影響著しく、明に乾濕の二季
に分れ、夏は概し高温多濕なれば、健康に適せ

悪疫は夏季多く流行するが故にこの季節には山地冷涼の地に移住するもの多くヒマラヤの山麓には處々に避暑地として發達せる都邑あり

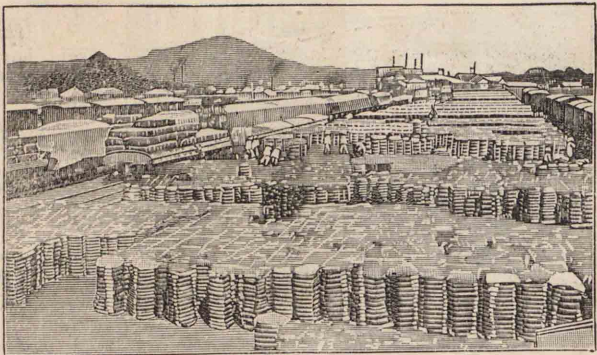


セロー島に於ける榕樹の根氣

ざる處多く、屢、悪疫の蔓延することあり。

夏は南西季節風吹きて、多量の濕氣を齎し、大部は降雨甚だ多く、ブ、サム地方にては一年間の雨量一萬耗以上に達することあり、この降雨の多少と時期の遲速とは、著しく農産に影響を及ぼし、屢、饑饉を招くことあるが故に、運河、貯水池等を設けて、人工的灌漑法に心を盡せり。冬は北東季節風吹きて、半島の東南部及び錫蘭島等に雨を降らせども、その量少く、範圍も亦狭く、大部は乾燥して西部には廣き沙漠を生ぜり。

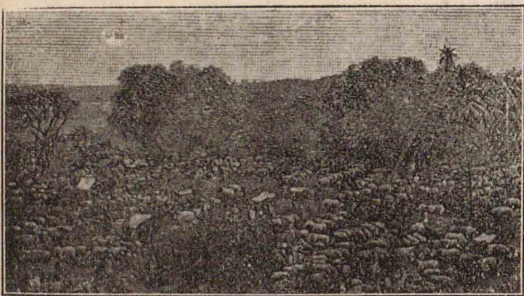
産業 氣候の關係上、生物の發育盛にして、榕樹等の森林繁茂し、猛獸毒蛇亦多く、害を人畜に及ぼすこと少からず。されどヒンドスタン平野を始め、肥沃の耕地廣く、新式の農業法を行ひて、綿米・茶・阿片・黃麻・菜種・甘蔗・洋藍・珈琲等の産に富み、又西部には小麦の産出多



日本の綿花社會の貯綿場

く、英國の寶庫と稱せられる。牛の飼養は甚だ盛にして、鐵・石炭・岩鹽等の鑛産も亦多く、近年紡績・製麻・製糖等の工業も著しく發達したり。

貿易は甚だ盛にして、英國との取引殊に多く、我が國へも盛に綿を輸出し、又我が國より羽二重・綿製品等を輸入す。



牛の市場

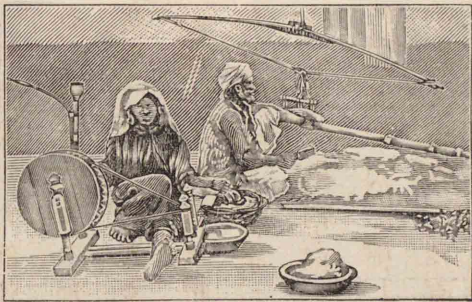
交通 鐵道の發達著しく、面積に對する密度は日本と伯仲し、その他河川運河の便利多く、馬は少しと雖、牛を騎乗の用に供し、運搬・耕耘

鐵道の延長三萬餘哩に及ぶ

には、牛の外に象をも使役す。海岸は單調なれども、人工を以てその缺點を補ひ、航路多く輻輳し、我が汽船も常にこの地と往復す。

住民 白人の一派なる印度族を主とすれども、南部には先住のドラビダ族(馬來人種)あり。印

度族は、僧士(農商)平民の三階級に分れて、ドラビダ族より成れる奴隸の上に位し、嚴に階級の別

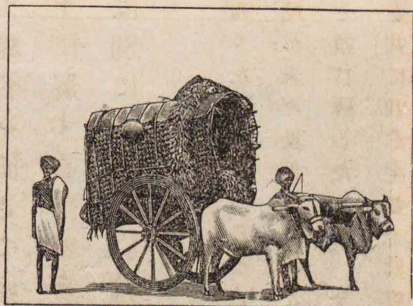


(ぎ紡糸とち打綿)活生の人士



貌容の族度印

を守りて、上下の懸隔甚だし。されど、この地の新主人として、彼等を統御するものは英國人なりとす。



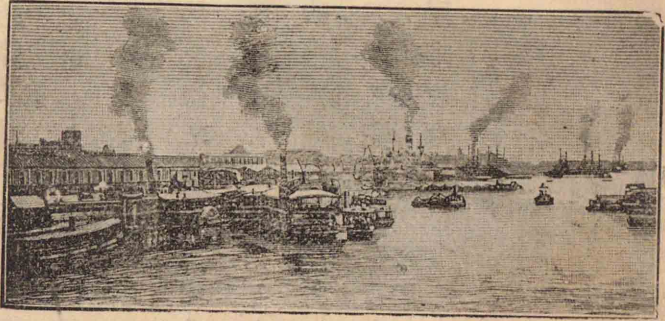
車 牛

印度族の大部は、印度教を奉じて迷信甚しく、回教も一部に行はる。佛教はこの地に起りたれども、今は僅にその面影をセーロン島等に殘すに過ぎず。

政治 この地は世界の古國にして、夙に文明の域に進みたりしが、その後國運衰頹して、西洋諸國の蠶食を蒙り、中にも英國人は最、權勢を得て、殆ど全部の政權を握り、緬甸及びベルチスタンの一部と共に印度帝國と稱し、英國王はその皇帝を兼ね、大總督を置きて之を治む。域内には、直轄州の外、處々に藩王の治下に屬する藩部あれども、英國の駐在官之を監督し、又セーロン島は別に一箇の直轄植民地をなす。

日印の關係 我が國との關係は甚だ古く、この地に起りたる佛教が、我が古代の文明に及ぼしたる影響は實に偉大にして、我が國民が、未だ世界の何物たるかを知らざりし時代にありても、支那と共に唐(天竺)と並び稱したりき。今は貿易關係極めて密にして、我が商品の大量輸出先たると共に、我が主要工業原料

カルカッタに我が
 總領事館あり
 カルカッタ航路
 横濱：神戸：門
 司：上海：香港
 ……新嘉坡：彼南
 ……蘭貢：カルカ
 ッタ



岸河のタッカルカ

たる線綿の四割餘はこの地より輸入し、汽船の往來
 常に頻繁なり。

都邑

ガンジス河の分流なるフーグリ河に

Hooghly

沿ひてカルカッタあり、ヒンドスタン平野の門

Calcutta City

戸をなし、繁盛なる商港にして、米・黄麻等の輸

出多く、我が航路も此處に通ず。パトナは農

Patna

産物の大集散地にして、ブダガヤは釋迦悟道

Buddha-gaya

の地たるを以て名高く、ベナレスは印度教の

Benares

靈地にして、寺院甚だ多し、

デリーは印度帝國の首府にして、交通の要

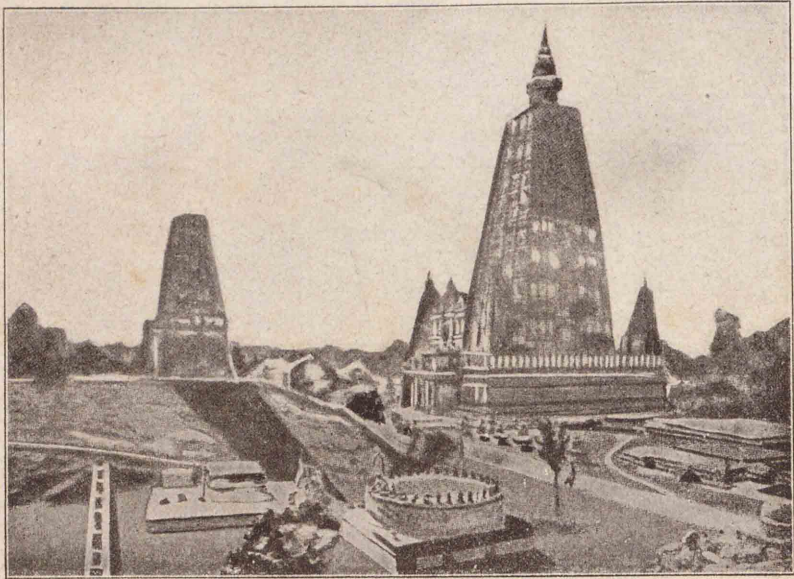
Delhi (38)

衝に位し、東南のアグラには、美術上著名なる

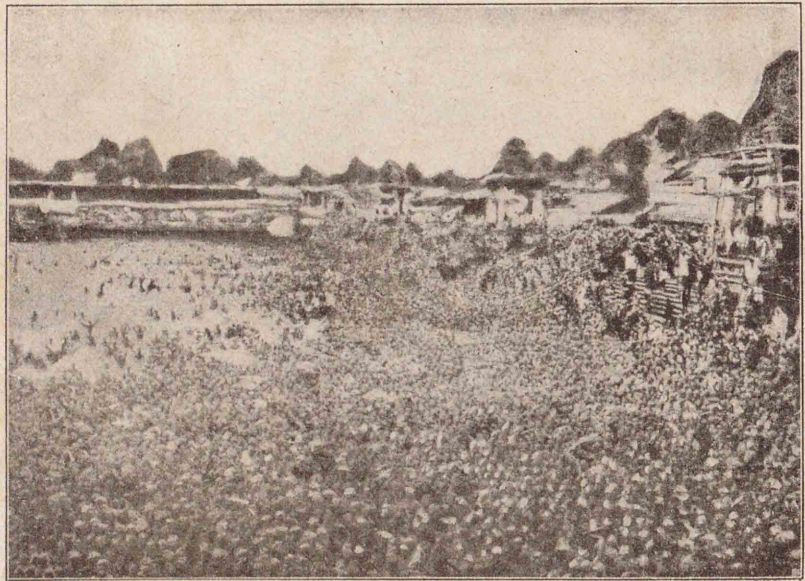
Agra

ルは交通の要地に位し、小麥の集散多く、ペシヤワ

Peshawar



跡遺の教佛るけ於にヤガダブ



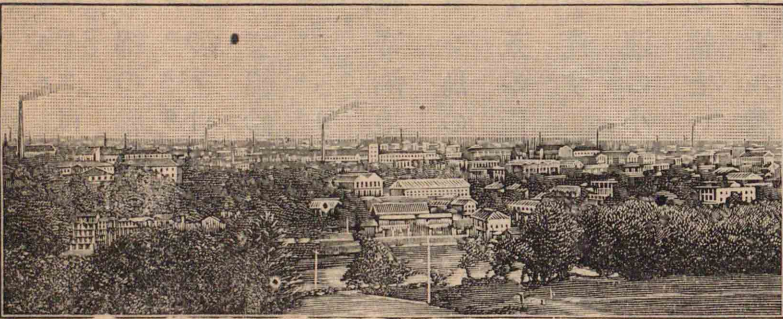
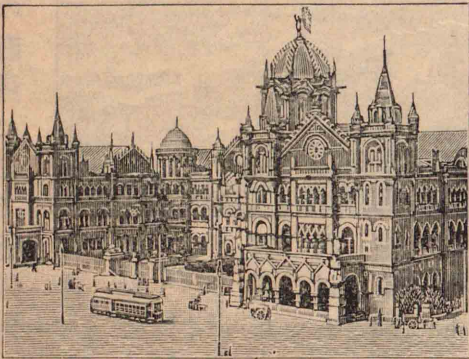
集群の徒教度印るけ於にスレナベ

孟買に我が領事館あり

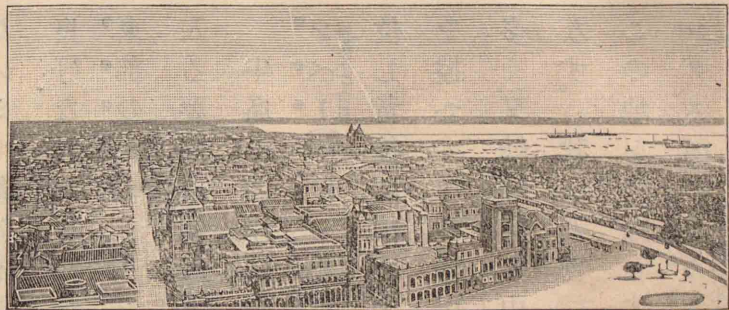
孟買航路
横濱：神戸：門司：上海：香港
新嘉坡：コロンボ：孟買

スリナガルはカシ米尔地方の中心をなし、
カシ米尔織を産す。シムラは土地高く氣候
良好なれば、夏は暑を此處に避くるもの多く、
東部のダージリンも亦避暑地にして、西藏に
入る要衝に當れり。

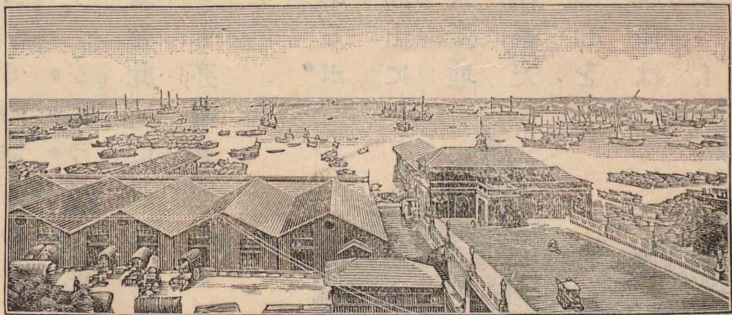
半島の西岸にあるボンベイ(孟買)は、一小島上に
位し、背後に綿の大産地を控へて、その輸出甚だ
多く、又紡績業の中心となす。我が孟買航路は
この地を終點とす。インドラス河口のカラチは、



孟買の停車場と市街(紡績工業地帯)



マドラスの展望(上)
コロンボの埠頭(下)



主要の商港にして、近年大いに盛況を加へ、東海

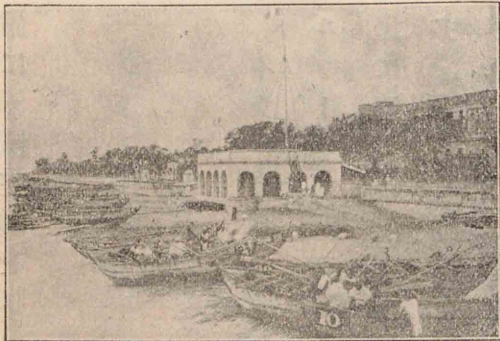
岸のマドラスは、碇泊稍不便なれども、綿の輸出多く、内地のハイダラバードは、回教の靈地にして、綿砂糖等の集散行はれ、チチコリンは、我が船舶の臨時寄港地なり。

セーロン島の大部は山地なれども、茶の産多く、又寶石黒鉛等を産す。印度半島との間に、一連の小嶼散點す、之をアダム橋といひ、ポーク海峡とマナール灣とを分つ、マ

コロンボに我が領事館あり

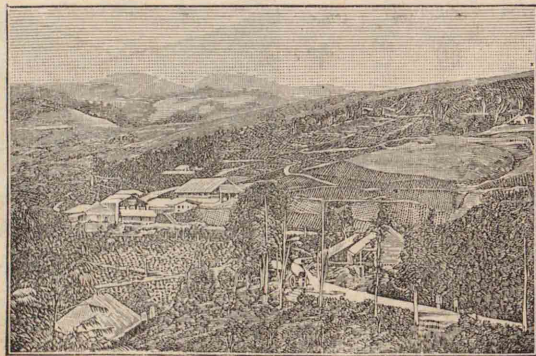
佛領
マヤ
シヤンデルナゴ
ル
ヤナオン
ボンヂシエリ
カリカル
葡領
ゴア
ダマン
ヂウ

ナール灣には眞珠の産あり。コロンボ(古)は本島の首府にして、航路の要衝に位し、市況繁盛なり、我が船舶の寄港するもの多く、東海岸のツリンコマリは、英國艦隊の根據地なり。



佛領ポデンシエリ海岸

印度半島の沿岸地方には、處々に佛蘭西及び葡萄牙に屬する地あれども、何れも狭小なり。中にて稍著しきは西岸のゴアにして、葡萄牙に屬す。ヒマラヤ山地にネパール、ブータンの二小國あり、共に獨立國にして、酋長之を治め、



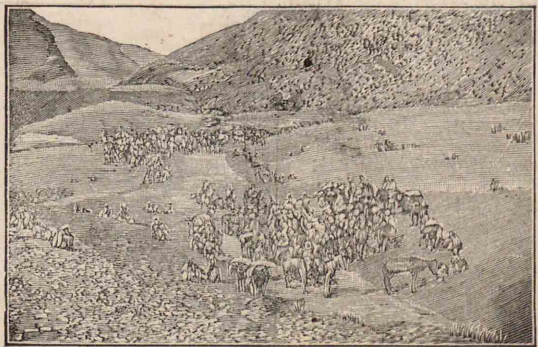
セーロン島の茶園

嚴に鎖國主義を採れり。

第六章 西部亞細亞

一 イラン地方

イラン高原の地を占め、ヒンヅークシエ
 ルブルズ及びスリマン等の山脈その周
 邊に連り、炎熱寡雨にして、内地は沙漠をな
 す。住民は遊牧を營むもの多けれども、縁
 邊・河谷等には沃地ありて、農業行はる。こ
 の地はアフガニスタン・ベルチスタン・ペルシヤの三部に分る。



景光の越ルベイカ

面積 約六十萬方
 里 (約四萬方里)
 人口 約六百四十萬

アフガニスタン 印度の西北に連る區域にして、カーブル酋長之
 を治む。カーブルは、中央亞細亞より印度へ通ずる要路に當り、そ
 の東方に名高きカイベル越あり。

面積 約三十萬方
 里 (約二萬方里)
 人口 約八十萬



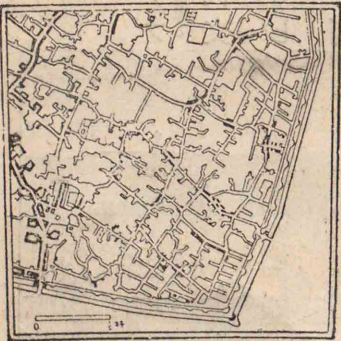
俗風の人婦ヤシルベ

ベルチスタン 東北部は印度帝國の
 一部をなし、ケタに官吏を駐在せしめ、
 他は英國の保護地にして、ケラットの酋
 長之を治む。

ペルシヤ 獨立の王國にして、近年憲
 法を布きたれども、内亂相次ぎて之を

面積 百六十萬方
 里 (約十一萬方
 里)
 人口 約九百萬

中止し、今は英國の保護を受く。住民の多數はイラニヤ族にして、
 農牧を主業とす。産物は穀物・綿果・實・石
 油等を出し、又絹織物・敷物等の精巧なる
 手工品に名高く、この地の石油は、著しく
 世界の耳目を惹けり。首府テヘランは、
 市中に迷路の多きを以て名高く、タブリ
 ーズは商業上の要地なり。



(街舊)街市のンラヘテ

チグリス河・ユー
フラテス河の下流
は相合してシヤテ
ルアラブ河となり
波斯灣に入る

○河上を溯
行しつゝあるは
大戦當時に於け
る英國の武裝汽
船なり

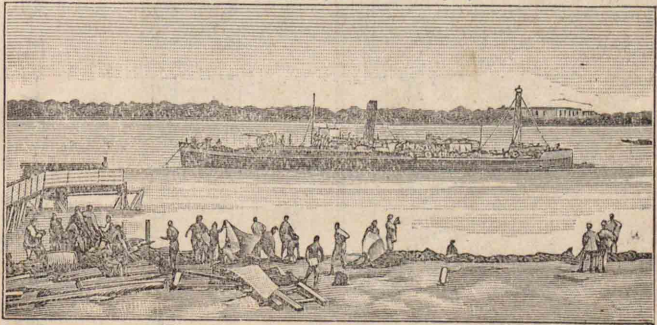
二 西部地方

メソポタミヤイラク國

チグリス河・ユー

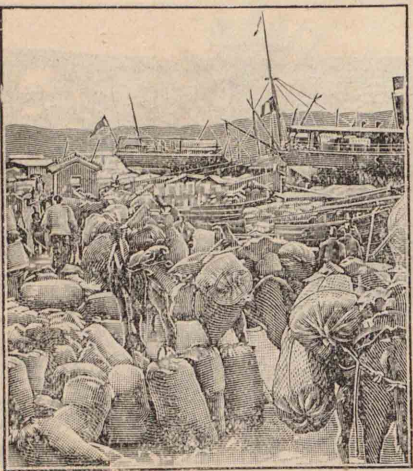
Euphrates

ラテス河の流域に屬する平野を占め、古代文明の發源地にして、近時まで土耳其に屬せしが、大戦後英國の統治地となる。住民は亞刺比亞族にして、多く農牧を營めるも、久しく灌漑の法を怠りて、土地の大部は荒蕪に歸せしが、近年大に復興に努め、且油田の發見ありてより、中心市たるバグダードと、その門戸たるバストラとは、大いに活氣を加へたり。



河 ス リ グ ナ

土耳其 小亞細亞半島より、波斯の西境に及ぶ地方にして、その大部は高原を成す。住民の多數は土耳其族なれども、西部には希

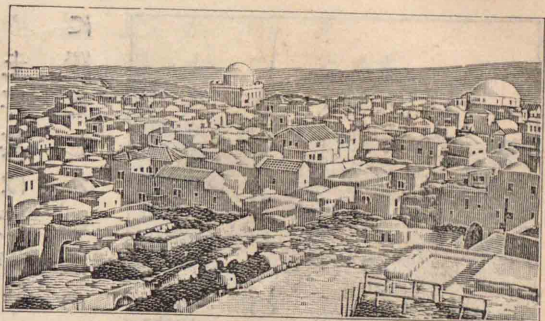


ナ ル ミ ス

且中心を亞細亞に移したり。
ア・ン・ゴ・ラはこの國の首府にして、附近より羊毛を産し、スクタリは歐洲に對する要地を占め、スミルナは多島海に臨める良港にして、果實等の輸出多し。

臘人の在住少からず。土耳其人は、多く農牧を營みて穀物果實生絲羊毛等を産し、希臘人は商業上の實權を握れり。この地を横斷して波斯灣岸に通ずる約二千哩のバグダード鐵道は、もと獨逸の敷設せしものにして、その大部は已に落成したり。
土耳其は近時まで、歐亞及び阿弗利加の三洲に跨り、首府を歐洲に置きしが、戦敗の結果、著しく地域を縮小し、最近に至り、永く採り來れる帝政を廢して共和制を布き、

死海は鹽分濃厚なるが爲に人は能く水面に仰臥することを得



街市のムレサルエ

人の郷土にして、英國保護の下に自治國となれり。この地は基督教の起りし處にして、首府エルサレムに基督の墳墓あり、信徒の遠近より参拜するもの多し。この邊の溪谷をヨルダンと

近海のキプロス島は英國の領土にして、ロードス島は近年伊太利に屬す。
シリヤ・パレスチナ 地中海の東邊に沿へる地方をシリヤといひ、大戦の結果佛蘭西の統治に屬す。ダマスクはこの地方の中心市にして、除商貿易盛に行はれ、西岸のベイルトはその門戸をなす。
シリヤの南部海岸地方をパレスチナと稱し、猶太

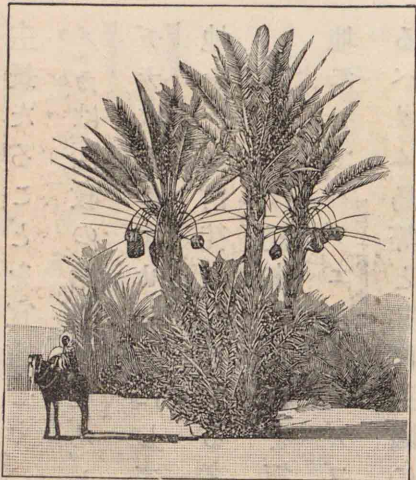


人るせ臥仰に面海死

いひ、世界第一の窪地にして、死海の水面は、地中海面よりも低きこと約四百米に及び、鹽分甚だ濃厚にして、魚貝の生育を見ず。

三 亞刺比亞

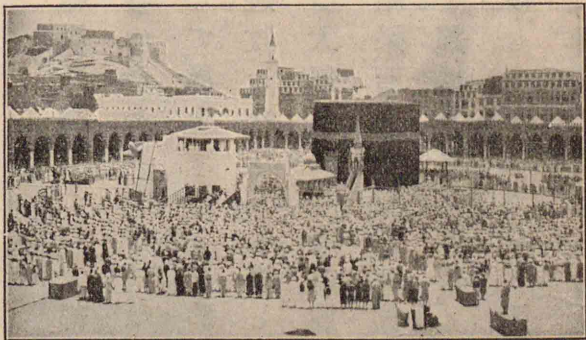
亞刺比亞は世界最大の半島にして、炎熱乾燥を極め、その大部は沙漠をなせども、海岸には棗椰子、護謨、珈琲等の産あり。住民は亞



刺比亞族にして、馬を愛育し、又駱駝等を養ひて遊牧をなすもの多し。
東 半島周邊の大部は、土耳其に屬せしむるが、大戦の結果、西部の地方は英國に保護の下に一部はトランスヨルダニアを成し、一部はヘジャス國をなす。ヘジャス國王は最近に回教の

回教の主長はもと
土耳其皇帝なりし
が土耳其が帝政を
廢し且教主たる特
權をも擯奪するに
及びヘジャス王が
その主長たること
を宣言したり

主長たることを宣言せり。西海岸に近き
メッカは回教の始祖マホメットの生れし處メ
ジナはその歿せし處にして、共に回教の靈
地をなし、信徒の巡拜する者多し。
アデンは紅海の入口を扼し、航通上の要
地にして、バブエルマンデブ海峡の中にあ
るペリム島等と共に、英國に屬す。東北岸
のオーマンは、英國の保護地にして、棗椰子
の産多く、その首府をムスカットといふ。
英國は已に大戰以前より、半島沿岸の要
所を占有せしが、今やその大部に勢力を振ふに至れり。



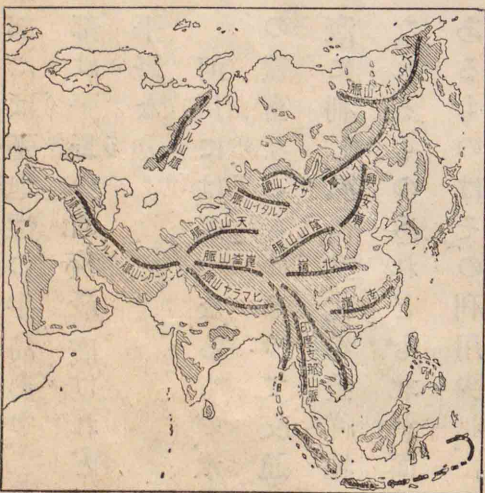
メッカに於ける信徒の集群

總 説

地勢沿岸 本洲は世界最大の大陸たるのみならず、世界最大の山脈
ありて、世界の最高峰その脈中に聳え、内部には世界最大の内地灌
域を包擁し、外縁には世界の最深海溝を環らす

中央高地	ヒマラヤ山脈 崑崙山脈	南嶺 印度支那山脈
	天山山脈 阿爾泰山脈	北嶺 陰山山脈 興安嶺
	山脈 スタノボイ山脈	西蔵高原 蒙古高原
西部高地	ヒンズークシ山脈	エルブールズ山脈 高加索山脈
	スリマン山脈	イラン高原 亞刺比亞高原
平野	アルメニヤ高原	西比利亞平野 支那平野
	ソボタミヤ平野	ヒンドスタン平野

して世界の屋根と稱せらるゝバ
ミル高原に起り、渦狀排列を成し



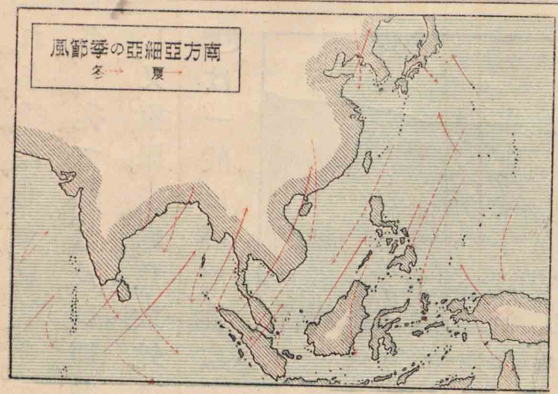
てその内側に高臺を抱き、別に西南部には臺地性の半島あり。平野は是等高地の周邊に發達し、西北部は平野の面積最も廣けれども利用の大なるるは東部及び南部の平野なり。

湖 水	淡水湖	裏海 アラル海 バルハシ湖 青海 死海 バイカル湖 洞庭湖 鄱陽湖 興凱湖
	鹹湖	
河 流	内地流域	アム河 シル河 タリム河 伊犁河
	北極海斜面 太平洋斜面 印度洋斜面	オビ河 エニセー河 レナ河 黒龍江 黄河 揚子江 珠江 メコン河 ブラマプトラ河 ガンジス河 インダス河 チグリス河 ユーフラテス河

半 島	タイミル半島 カムチャカ半島 朝鮮半島 遼東半島 山東半島 印度支那半島 マレー半島 印度半島 亞刺比亞半島 小亞細亞半島
	オビ灣 ベーリング海 日本海 黄海 東支那海 南支那海 暹羅灣 ベンガル灣 亞刺比亞海 波斯灣 紅海 多島海
海 峽	ベーリング海峽 間宮海峽 朝鮮海峽 臺灣海峽 マラッカ海峽 パプエルマンデブ海峽
	ニューシベリヤ諸島 日本列島 マレー諸島 セーロン島 キプロス島

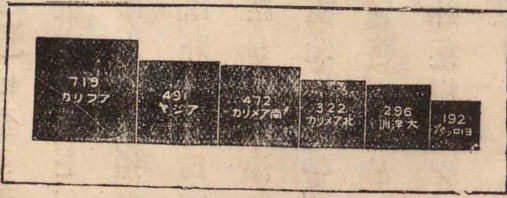
河川には長大なるもの、水量の豊富なるものありて、交通灌漑に利し、夙に文化の發祥地となれるものあれども、北斜面にあるものは、その利用少し。湖水の大なるは、中央亞細亞の海跡湖と、支那の湖盆とにして、その他中部の高臺には、多くの鹹湖散在し、西比利亞にはバイカルの地溝湖あり。

下圖は海岸線一哩に對する割合の面積を示せるものにして數字は方哩なり



海岸の出入は、北極海斜面に單調なれども、太平洋岸には、日本列島を始め弧狀の群島羅列して、近く大陸の前衛をなし、印度洋面には、二大半島の突出せる外、屬島の著しきものなし。要するに本洲は、面積に對する割合に海岸線の發達は著しからず。

氣候産物 土地廣く地形錯雑なれば、氣候は處によりて大差あり。東部(太平洋斜面の大部)は、日本海流の影響を受けて比較的溫暖なり、殊に季節風帯は雨量多くして、有用の動植物に富む。南部(印度洋斜面、印度支那半島、マレー半島)は大部分熱帯に入り、氣温の變化少くして乾濕の二期に分



海岸線發達の比較

れ、冬季は北東風吹きて降雨少く、夏季は南西風を受けて雨量甚だ多し、従て熱帯及び亞熱帯性の植物繁茂して、重要な産物を供給し、又象、犀、虎、鱒魚、大蛇の如き巨大なる動物棲息す。西部(イラン地方、亞細亞)は一般に高原性にして、大部は氣温高く、雨量乏しければ、沙漠をなせる處少からず。内部(中央亞細亞、西北部)は全く大陸性にして、寒暑の差著しく、雨量亦少きを以て、不毛の沙漠、草野をなし、土人は水草を追ひて遊牧を營み、トルキスタンには野生の馬、驢等あり。北部(北極海、斜面)は海水凍結して、氣温の調節行はれず、氣候嚴寒にして極北の一帶は凍原をなし、馴鹿の群を見るに過ぎざれども、南部は夏季の氣温割合に高く、針葉樹林をなして貴重なる毛皮獸此處に棲息す。



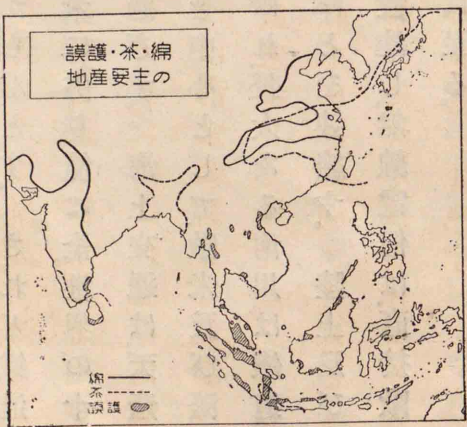
亞細亞内地の光景

なせる處少からず。内部(中央亞細亞、西北部)は全く大陸性にして、寒暑の差著しく、雨量亦少きを以て、不毛の沙漠、草野をなし、土人は水草を追ひて遊牧を營み、トルキスタンには野生の馬、驢等あり。北部(北極海、斜面)は海水凍結して、氣温の調節行はれず、氣候嚴寒にして極北の一帶は凍原をなし、馴鹿の群を見るに過ぎざれども、南部は夏季の氣温割合に高く、針葉樹林をなして貴重なる毛皮獸此處に棲息す。

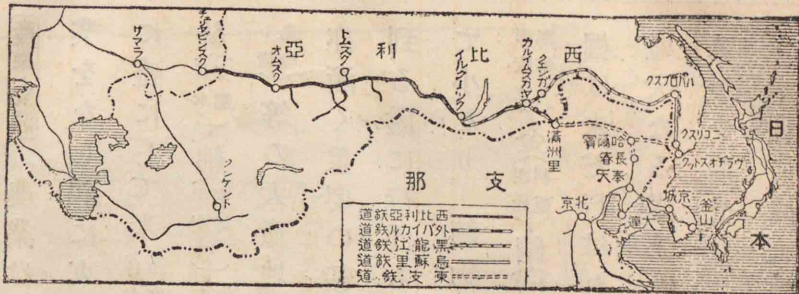
産業・交通

農業は本洲に於ける主要の生

業をなし、殊に東部及び南部の氣節風帶に盛にして、米(日本、支那、印度、マレー、諸島等)、茶(日本、支那、印度等)、生絲(日本、支那、印度、支那等)、綿(印度、支那等)、砂糖(マレー、諸島、印度、臺灣等)、護謨(印度、支那、マレー)等の大産地をなし、西部西比利亞(諸島等)亦漸く重要な穀倉たらんとす。牧畜は到る處に行はるれども、その規模は極めて小なり。礦物は石油(高加索、マレー、諸島、日本等)、石炭(日本、印度、支那等)、金(西比利亞)、銅(日本、マレー地方)、鐵(支那)等の埋藏少からざれども、大規模の採掘は未だ行はれず。工業は漸次勃興の機運に向ひ、一部にはその盛大なる處あれども、一般には尙原料の供給地、製造品の需用地たる域を脱せず。



本洲には大山脈・大沙漠等、交通の發達を妨ぐる天然の事情多く、



古來、驢駱駝等によりて往來せしが、近年日本印度及び支那等には、鐵道頗發達し、又西比利亞鐵道は、世界交通の大幹線として重要な位置を占め、外裏海中央亞細亞等の諸線も次第に延長して、將來支那の鐵道と連絡せんとし、バグダード鐵道の完成も亦近からんとす。されど鐵道の延長哩數は、遙に歐米に劣り、僅に全世界の十分の一を有するに過ぎず。海上交通は、天産多き東部南部の諸港を中心として、歐米及び濠洲等との間に盛に行はれ、長大なる河川は鐵道と相俟ちて、内地と海洋とを連絡す。陸上及び海底の電線も大いに發達し、無線電信は、直接歐米諸國と交換し得るに至る。

住民國狀

本洲の住民は八億を超え、世界人口の過半を占む。され

亞細亞人種 日本族 (日本内地) 朝鮮族 (朝鮮) 漢族 (支那本部・滿洲) 通古斯族 (滿洲・西比利亞) 蒙古族 (蒙古・西比利亞) 西藏族 (西藏・青海) 苗族 (支那西南部) 印度支那族 (印度支那) 土耳其族 (小亞細亞・中央亞細亞・新疆省)	歐羅巴人種 印度族 (印度) イラニヤ族 (イラン地方) 亞刺比亞族 (亞刺比亞) スラブ族 (西比利亞) 高加索族 (高加索) 馬來人種 馬來族 (マレー地方) ドラビダ族 (印度)
--	--

佛 教 セーロン島 印度支那 支那 日本等 印度 教 回 教 亞刺比亞 小亞細亞 イラン地方 中央亞細亞 マレー諸島 新疆省 印度一部 基督教 主として歐米人の住地に行はる

の住める處あり。世界の大宗教たる佛教・印度教・回教・基督教等は、何れも本洲に起りたれば、其等に關する靈地・舊蹟處々に散在せり。されど、起源地と信奉地とは一致することなく、基督教の如きは、主として歐米人の間に行はる。

本洲は文化夙に開けて、古代歴史の舞臺となりたる處多きのみならず、中古の頃にも強國相繼ぎて起り、歐洲の東部を侵略するもの絶えざりしが、排外孤立の思想によりて、終に現代の文明に遅れ、今や洲の大半は歐米人の有に歸し、残れる僅少の獨立國も、或は厯大に失して統一を缺き、或は微弱にして自立の力なく、殆ど歐米人の干渉を受けざるはなし。この間に立ちて、軒然として衆邦に卓越し、世界の列強と相對立するは、獨、我が大日本帝國あるのみ、吾人は帝國の國民たる榮譽の赫々たるを思ふと共に、聖恩の優渥なるを感ずること愈、切なり。

中等
教育
最近世界地理
上卷終

附
錄
(上卷)

設
問
集

設問は、既往數年間に於ける各専門學校等の入學試験問題を集めて、之を本書修學の順序に按排し、更に新問題を補ひて整理したるものなれば、重複に傾ける箇所も少からざれども、同一の事項も、發問異なれば思考自ら變ずるを以て、概ね之を採擇したり。又問題の下に、括弧を加へて記せる(高等)(東師)(神商)(海機)等は、高等學校・東京高等師範學校・神戸高等商業學校・海軍機關學校等の入學問題なりしことを示せる略字なり。

緒
言

- 我が國の重要なる輸出品及び輸入品を列舉せよ(海機)
- 現時日本人移民の多數在留する國(又は地方)を列舉せよ(長商)
- 日清戰役後我が治下に屬したる地方を舉げよ
- 斯くなりたる由來を略説せよ

滿
蒙
地
方

- 關東州が我が租借地となれる沿革を略述せよ
- 關東州の政治につきて記せ
- 關東州の價値を論ぜよ(東商)
- 大連市の交通・貿易につきて記せ
- 間島につきて記せ
- 略圖を描きて間島の位置を示し且つ知る所を記せ(廣師)
- 滿洲の省名及び省城地を記せ

- 満洲に於ける鐵道を圖示して之を説明せよ (海經(高等))
- 満洲に於ける鐵道系統を圖示し線路名・經營者を記入せよ(彥商)
- 朝鮮及び南滿洲の鐵道を説明せよ(廣師)
- 南滿洲鐵道沿線の産業状態を述べよ(天分商)
- 南滿洲鐵道の本線に沿へる主要の都市を列舉せよ
- 滿洲の主要なる鑛産地を記せ
- 滿洲及び東蒙古の主要なる産物を舉げ且その主なる輸出先を示せ(陸經)
- 滿洲の略圖を描き長白山脈・興安嶺・松花江・遼河・奉天・撫順・鳳凰城・旅順・營口の位置及び南滿洲・東支鐵道線路を記入せよ(高等)
- 左の地につきて記せ
 - 營口(山商(海兵)) 撫順(東師(高等)(陸士))
 - 本溪湖(海經(北大)) 法庫門(高等)
 - 安東(山商(高等)(福商)鐵嶺(女師))
 - 鄭家屯(長商) 吉林(高等)

長春(山商(神商)(東師)(北大))
 洮南(廣師)(海機) 哈爾濱(外語)
 承德(小商)

亞細亞洲概説

- 世界の各大洲を面積順に列記せよ
- ユーラシア大陸とは何ぞ(陸士)
- 亞細亞洲の産業が東部・南部の外未だ著しく發達せざる理由を地理上より述べよ

支那

- 支那と境を接する國を舉げよ(海兵)
- 支那の山脈・高原を略圖にて示せ
- 支那に於ける重なる港灣を舉げよ(海機)
- 支那に於ける大河を列舉しその中重要なるものにつきて産業との關係を述べよ(小商)
- 支那の氣候及び住民を示せ(長商)
- 支那の産業を略述せよ(神商)(遞信)(陸經)
- 支那の名高き鑛産地を舉げよ

- 支那の略圖を描き主要なる炭田若しくは炭坑の名稱並に鐵鑛産地名を其の所在に従つて記入すべし(神商)
- 支那の主要なる輸出入品を示し又我が國に對し何を買ふかを明にせよ(專檢)
- 支那の主要貿易を列舉せよ(陸經)
- 支那の主要開港場を問ふ(長商)(陸經)
- 我が國支那間の産業上の關係を述べよ(外語)
- 日支貿易關係を詳述せよ(海經)(小商)
- 支那の主要鐵道を圖示せよ
- 左の鐵道につきて述べよ
 - 津浦鐵道(東師)(廣師) 京漢鐵道(東師)
- 山東鐵道沿線の産業状態を述べよ(天分商)
- 東京より陸路をとり朝鮮を經由して上海に至る鐵道の系統を圖示し、各線路の經營者を記入せよ(東師)
- 揚子江の水運の概況を問ふ(海機)
- 交通上より黄河及揚子江を説明せよ(廣師)

- 日支間の海底電線を問ふ(商船)
- 支那住民の種族とその分布とを示せ(陸士)
- 支那中央政府の組織を問ふ
- 支那の略圖を描き左の山川・都會を適當の位置に記入せよ(高等)

ヒマラヤ山脈	アルタイ山脈	崑崙山脈
天山山脈	黄河	揚子江
黒龍江	漢口	西安

- トランスヒマラヤ山脈につきて知る所を記せ(東師)
- 渤海岸の名高き都會を問ふ(陸幼)
- 黄河の沿岸にある著名なる都會を舉げよ(海機)
- 揚子江につきて詳述せよ(神商)
- 黄河と揚子江との特色を比較せよ(陸士)(廣師)
- 揚子江の本支流に沿へる主要開港場を列舉せよ(外語)(商船)
- 揚子江水系の地圖を描き沿岸の開港場を記入せよ(海兵)(海機)
- 揚子江沿岸の左記諸都市を河口より上流に至

る順序に従ひ列記せよ。且つ鐵道の通じ居る都市の下には其鐵道の名稱並に起點及び終點を併記せよ(商船)

武昌 南京 九江 漢口 重慶 吳淞
沙市 浦口 宜昌 鎮江

●支那本部の略圖を描き揚子江及び之に沿へる中部六省の位置を示せ(海兵)(海機)(海經)

●支那に於ける他國の領地及び租借地を列舉し且その本國及び租借國名を記せ(海兵)(海機)(海經)(高等)(外語)

●支那本部の境界を問ふ(高等)

●支那本部を形成する各省の名稱を述べよ(高等)(海機)(女師)

●左の地につきて記せ

膠州灣(高等)
香港(高等)(海兵)
廣州灣(廣師)(山商)
廣州(廣師)(外語)
東(高等)(大阪外語)
武昌(神商)(鐵教)
青島(高等)(海機)
九龍(外語)(名商)
福州(高等)(外語)
重慶(東商)(長商)(北大)
長沙(東商)

沙市(東師) 吳淞(廣師)
成都(東師)(海兵)(長商)(海經)(東商)
蘇州(東師) 江寧(水産)
漢口(高等)(東商)(女師)(水産)
上海(東商)(山商) 萍鄉(東師)
九江(山商)(東師) 舟山列島(海機)
開平(陸士) 南昌(山商)
景德鎮(小商)(山商) 芝罘(海兵)
大冶(神商)(高等)(海機)(東商)
天津(陸經) 太沽(外語)(海兵)
濟南(廣師)(外語) 張家口(山商)(陸經)(外語)
秦皇島(廣師)(東師)(山商)(海機)(海經)(北大)
戈壁沙漠(高等) 庫倫(東商)(高等)
伊犁(高等)(海兵) 迪化(陸士)
拉薩(高等) 青海(海經)
漢江(大分商) 媽港(高等)(北大)
淄川(高等) 曲阜(東外)
宜昌(海兵) 秦嶺山脈(北大)(鐵教)
閩江(東師)

亞細亞露西亞

●西比利亞の地勢と氣候とを述べよ

●西比利亞の四大河を擧げよ

●西比利亞の産物につきて記せ

●西比利亞の地勢と天産物との關係を述べよ(北大)

●西比利亞の鑛産につきて記せ(大外語)

●西比利亞に於ける高地・草原・凍土・森林の四帯につきて地形・氣候・天産物の差異を述べよ(廣師)

●西比利亞の略圖を描き隣國・地形・主要都會及び交通線を記入せよ(東師)

●西比利亞の略圖を描き左の地名を記入せよ(鐵教)

スタノヴイ山脈 オビ河 バイカル湖
オムスク ヤブロノイ山脈 エニセー河
イルクーツク ウラル山脈 レナ河
ハバロフスク

●西比利亞鐵道の沿道に於ける主要なる都會五ヶ所を擧げて説明せよ(東商)(陸士)

●左の地につきて記せ

ハバロフスク(廣師)(水産)
ニコライエフスク(長商)
チタ(長商)
コマンドル諸島(水産)
ネルチンスク(陸士)
イルクーツク(外語)
エニセー河(神商)
トムスク(海機)
サマルカンド(海兵)(海機)(海兵)
バク(東師)(海機)
バツーム(長商)(東師)
アラル海(陸士)
●中亞細亞の鹹湖と之に注ぐ河川とを擧げよ
●外カスピ鐵道につきて記述せよ(陸士)
●コーカシヤ地方にある獨立國を記せ

印度支那

- 印度支那の五大河を挙げよ(長大)
- 印度支那につきて氣候・産物・領有者を問ふ
- 印度支那の行政上の區劃と産物とを記しその海港を挙げよ(商船)
- 左の地につきて記せ
 ラングトン(高等)(神商)(山商)(水産)(鐵敏)(海機)(海經)(郵便)(海兵)
- 新嘉坡(高等)(海機) マラッカ(外語)
- 盤谷(海兵)(海機)(長商)メナム河(東師)
- 河内(廣師)(神商)(水産)海防(外語)
- ユエ(高等) 海峽植民地(大分商)(東師)
- 西貢(高等)(小商)(海機)(外語)

馬來諸島

- 馬來諸島中の大島及びその所屬國を問ふ(高等)(外語)(陸士)

大島

馬來諸島の主要物産を記せ(外語)

- 蘭領印度の主要貿易港を問ふ(長商)
- ジャワ島につきて記せ(長商)
- フィリピン諸島の主權・氣候・物産・首府を問ふ(海機)(海兵)
- 馬來諸島につき次の諸項を問ふ
 イ、主ナル島六ツ ロ、所屬國名
 ハ、主ナル港二ツ ニ、主なる物産五ツ
- 左の地につきて記せ
 バタビヤ(高等)(東師)(神商)(外語)(長商)
 スラバヤ(海機)(高等)(彥商)
 マカッサル(山商)(外語) ザンボアンガ(海經)
 呂宋島(海機) マニラ(神商)(福商)
 スマトラ島(山商)

印度

- 印度の境域を問ふ(海兵)
- 印度の地勢を説明せよ(商船)
- 印度の産業につきて述べよ(郵遞)

我が國より見て主要なる印度の産業につきて記せ

- 日印間の貿易關係を問ふ(海兵)
- 印度帝國の政治組織につきて述べよ(陸士)
- 印度の主要都市を列記せよ(商船)
- セーロン島につきて記せ(高等)
- ヒンヅ種族(印度種族)に就きて記述せよ(陸士)
- 印度の住民及び風習につきて記せ
- 左の地につきて記せ
 カルカタ(海機) バトナ(陸士)
 ベナレス(陸士) デーリ(東師)(郵便)
- 孟買(海兵)(名工)(外語)(東師)(陸機)
- コロンボ(高等)(東師)(陸士)(海機)
- 西部亞細亞
- イラン地方にある國名とその首府とを記せ
- バグダード鐵道につきて記せ
- 西部亞細亞にある古代文明の發源地と宗教の

起源地と記せ

- 何故に紅海は細長き海なるか(高等)
- 舊土耳其の領土は如何に處分せられしかを述べよ
 [注意]阿弗利加總説を參照
- 左の地につきて記せ
 テヘラン(女師)(海兵)(海機)(海經)(外語)
 バグダード(東商)(海兵)(商大)
 ダマスク(山商)(郵便)
 ジョルダン谷(ヨルダン谷)
 カブール(東外)
 アンゴラ(廣師)
 エルサレム
 メッカ
 アデン(商船)(外語)
 ペリム(海經)
 紅海(海經)

亞細亞洲總説

- 亞細亞洲の山系系統を語れ(東師)
- 亞細亞洲の略圖を描き山脈を記入すべし(東商)
- 亞細亞洲の大河を斜面別に列記せよ(海兵)
- 亞細亞洲の半島を問ふ(高等)
- 亞細亞洲の住民中亞細亞人種以外の民族につきてその分布を述べよ
- 亞細亞洲の獨立國及びその政體につきて述べよ
- 亞細亞洲に於ける英・佛・露・蘭の領地を問ふ(陸士)(東師)
- 亞細亞洲に於ける立憲國を擧げよ(海兵)(東師)
- 亞細亞洲に於ける歐米各國の勢力を問ふ(陸士)(東師)
- 亞細亞洲に於ける英・佛・露・蘭の領地を問ふ(郵電)(高等)

設 問 集 終

大正十四年二月三日
文 部 省 檢 定 濟

不 許 復 製

發 行 所 (東京市麴町區) 手 町

株 式 三 省 堂

電 話 牛 込 七 二 六 三 (振替口座東京三三三三)

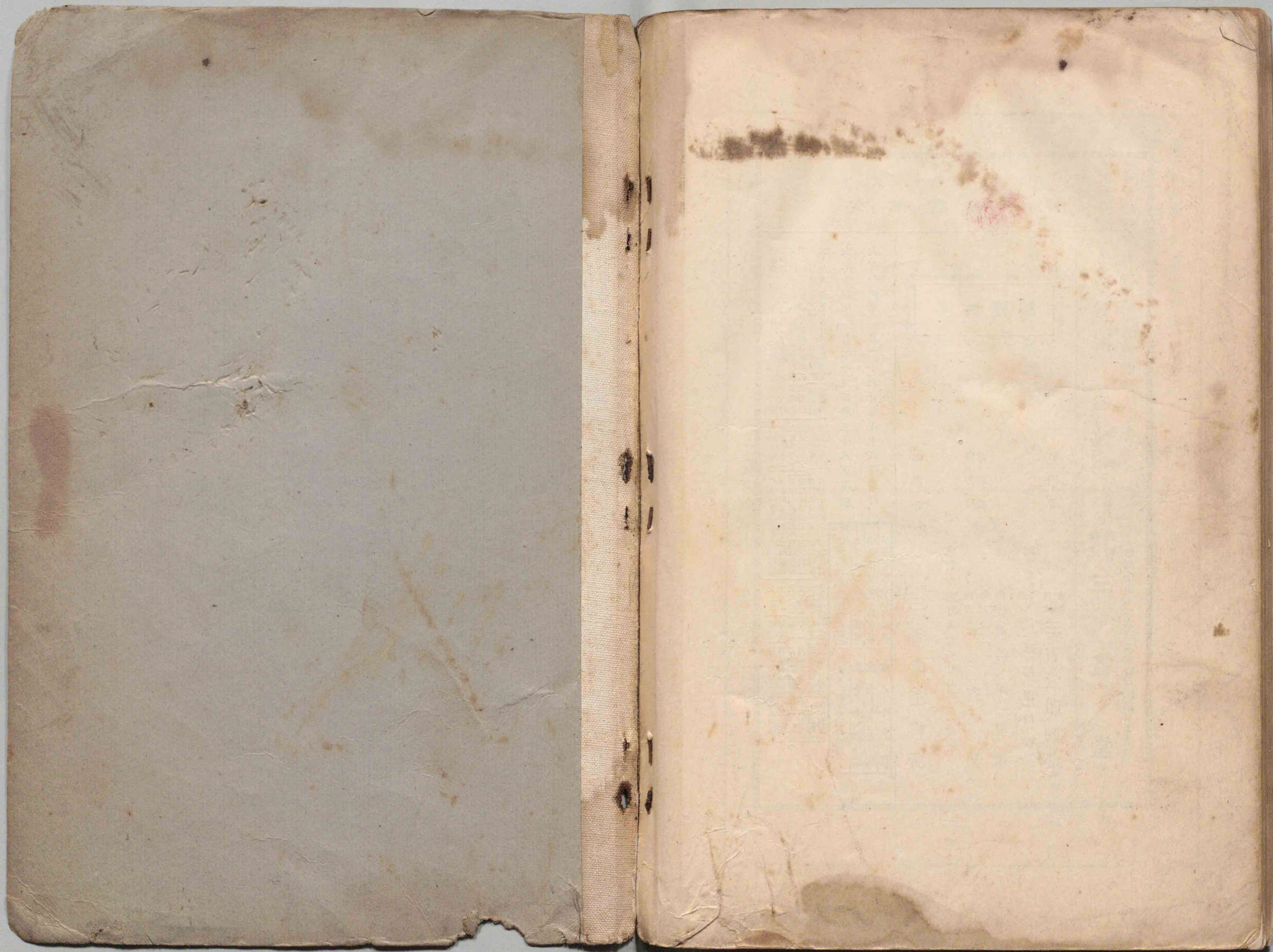
明治四十四年十月三十日印
 明治四十五年一月二日發
 明治四十五年一月廿四日修正再版發行
 大正六年十二月十三日修正十一版發行
 大正十四年一月二十三日修正十八版印刷
 大正十四年一月二十六日修正十八版發行

上卷	定價金四拾壹錢	金七十四錢
中卷	定價金四拾四錢	金七十九錢
下卷	定價金四拾九錢	金八十八錢

中等最近世界地理(九訂版) 大正十四年度臨時定價

編 纂 者 三省堂編輯所
 東京市麴町區大手町一丁目一番地
 株 式 三 省 堂
 代 表 者 神 保 周 藏
 東京府荏原郡蒲田町
 株 式 三 省 堂 印 刷 部

印 刷 所



第一學年

山陽中學

水口輝男

山陽中學



山陽縣

山陽町

山陽町

第一學年

水口輝男

広島大学図書

2000301540